

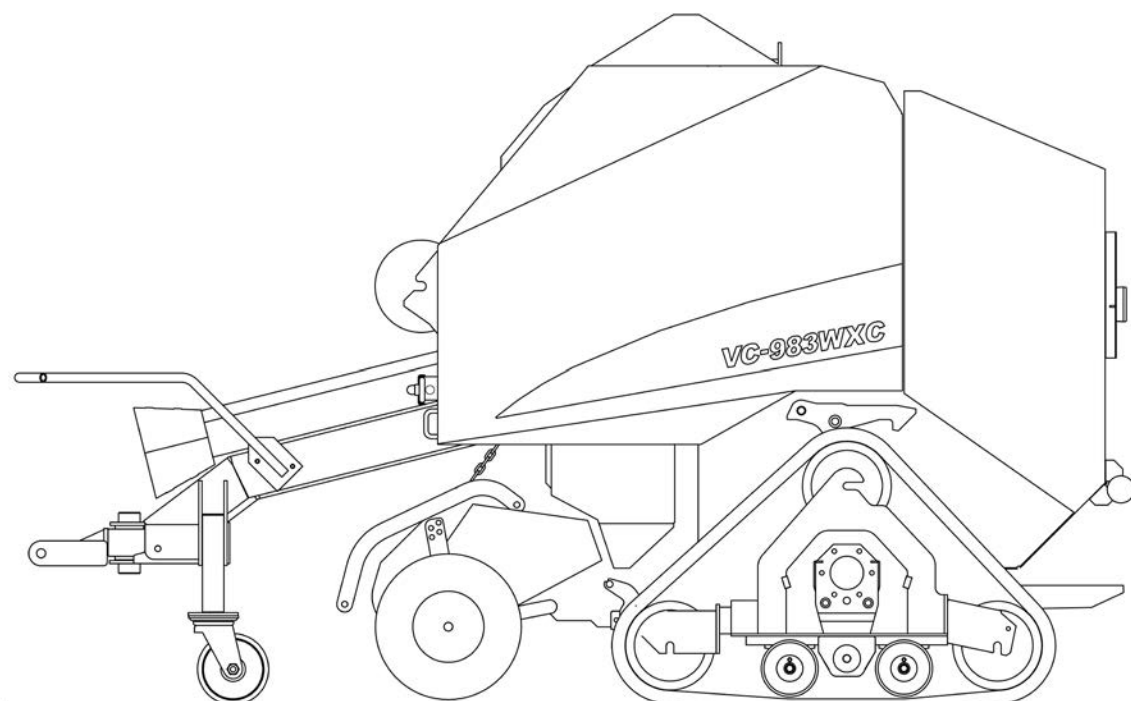
取扱説明書及び部品表

Takakita

70-70-11ベ-ラ

VR-983WXC

VC-983WXC



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**クローラロールペーラ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付の点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

- | | |
|------|--|
| ⚠ 危険 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
| ⚠ 警告 | その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
| ⚠ 注意 | その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。 |

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	20
各部の名称とはたらき	21
トラクタへの装着	26
1. 装着のしかた	26
2. ユニバーサルジョイントの取付け	26
3. コントロールボックスの接続	28
運転に必要な装置の取扱い	29
1. 油圧装置	29
2. コントロールボックスの取扱い	30
3. ネットの取付け	30
4. トワインの取付け	32
5. ネット／トワインの選択	33
6. ベール直径の設定	33
7. 梱包圧の設定	33
8. 自動注油装置の取扱い	34
9. 安全装置の取扱い	35
10. ピックアップ装置の取扱い	36
11. Vヒッチの取扱い	37
12. 切断装置の取扱い(V Cタイプのみ)	37
13. テールランプの確認	38
作 業 方 法	39
1. 作業前に	39
2. P T Oの回転速度	39
3. 拾い上げ方法	39
4. 作業速度について	40
5. コーナーでの走り方	40
6. ブザーが鳴ります	40
7. 傾斜地での作業	40
作業前の点検について	41
1. 点検一覧表	41
簡単な手入れと処置	42
1. チェンの張り調整	42
2. 切断ナイフの手入れ(V Cタイプのみ)	42
3. クローラ部の点検	42
4. スイッチの調整	43
5. 各部の注油・グリスアップ	46
6. 長期格納時の手入れ	48
不 調 診 断	49
付 表	52
1. 主要諸元	52
2. 主な消耗品	52
3. 電装-1	53
4. 電装-2	54



安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解したうえで使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

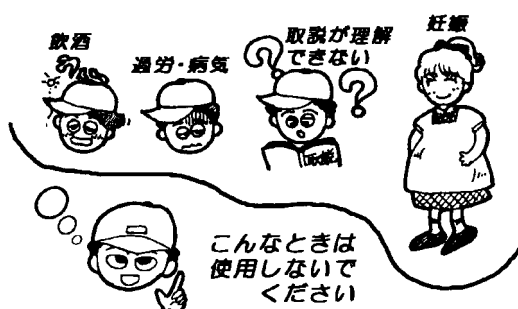
機械を人に貸すとき、または所有者以外が運転するときは、運転方法を指導し、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

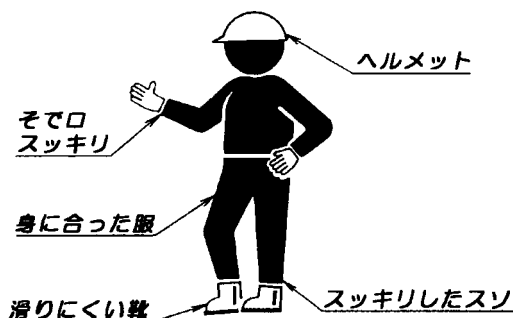
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適応トラクタ馬力

型 式	馬 力 kW(PS)
VR-983WXC	24.3~58.8 (33~80)
VC-983WXC	24.3~58.8 (33~80)

- ロワーリンク規格 : カテゴリ I・II
- PTO回転速度 : $540\text{min}^{-1}(\text{rpm})$
- 電源用バッテリー : DC12V

(4) 装着時の前後のバランス確認

トラクタに装着(連結)した作業機の最大積載状態において、トラクタ前輪にかかる荷重は、総重量の20%以上前輪に作用していることが必要です。もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウェイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着(連結)しないでください。

(5) バランスウェイトの取付け

トラクタのバランスウェイトは指定された部分に指定されたウェイト以外は取付けしないでください。

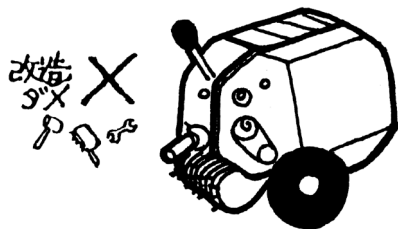


安全に作業するために

(6) 機械の改造厳禁

指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。



(7) 使用目的以外への使用禁止

本機は稲ワラ、牧草、麦稈等をバール成形する作業を目的とした機械です。他の目的には使用しないでください。

(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

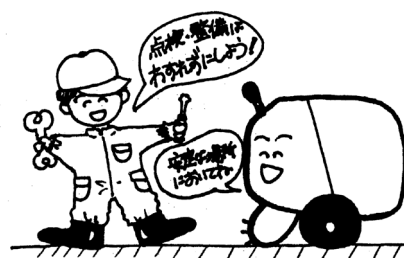


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、PTOを切り、トラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。



(4) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(5) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取除き、機械を常にきれいにしてください。





安全に作業するために

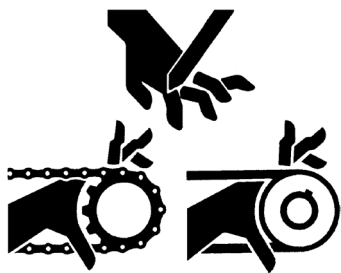
(6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(7) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(8) 注油・給油するときは

チェーンへの注油は、必ずPTOを切り、エンジンを停止してから行ってください。



また、油圧パッケージへの給油は、高温のときには行わないでください。

(9) コントロールボックスの電源脱着は

トラクタのバッテリーより電源を取出します。その取付け方法は、(+)側から行ってください。外す時は、(-)側から行ってください。逆にすると火花が飛び危険です。



つける時は(+)側から
外す時は(-)側から



(10) クローラの点検・修理をするときは

- ①ゴムクローラが緩んだまま使用すると、走行中にクローラが外れるおそれがありますので、定期的に点検を行ってください。
- ②ゴムクローラの張り調整は、規定の方法に従い行ってください。
- ③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。



安全に作業するために

(11) 長期格納するときは

機械を清掃し、回転部およびチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。

コントロールボックスはトラクタより取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。



安全確認



(4) エンジンを始動するときは

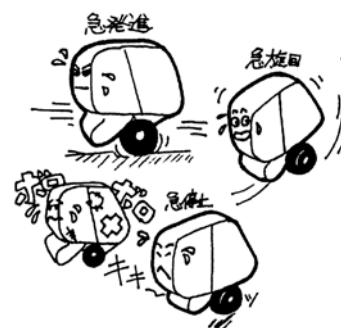
PTOを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

(5) 急な発進・停止・旋回・

スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

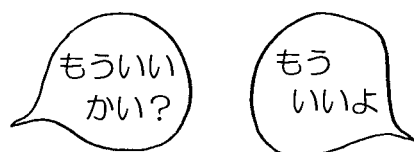


(2) PTO回転中は危険です

回転部には近寄らない、触らないを守ってください。

(3) 二人以上で作業するときは

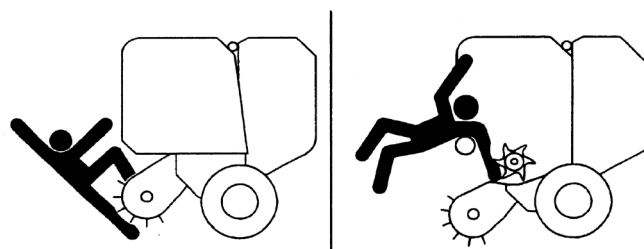
二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(6) 回転中のピックアップドラムや

タイトバーには触れない

回転しているピックアップドラムやタイトバーに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。





安全に作業するために

(7) 回転中のユニバーサルジョイント

には触れない

回転しているユニバーサルジョイントに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ傷害を負うことがあります。



(8) 傾斜地で作業するときは

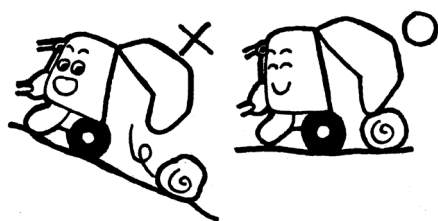
次のことを必ず守ってください。

- ①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。

斜面の作業は、必ず等高線に対して直角方向に走行してください。

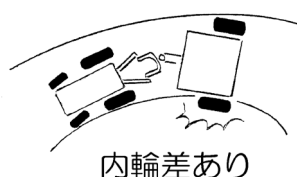
- ②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。守らないと、転倒する危険があります。

- ③傾斜地でのバール放出は、谷側にバールが転動して危険です。必ず平坦地まで移動して、安全な場所に放出してください。



(9) 移動および作業の旋回の際は

トラクタに本機をけん引して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。



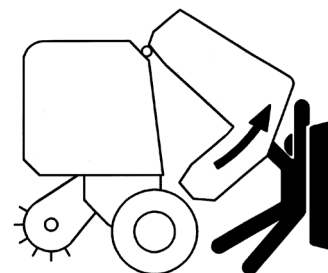
(10) シェアボルトの交換や

巻き付き草などを取除くときはPTOを切り、エンジンを必ず停止し、回転部が完全に止まってから行ってください。



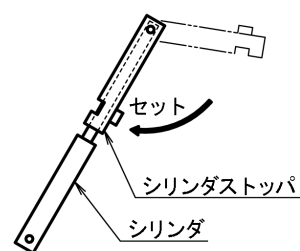
(11) バールを放出するときは

バールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。

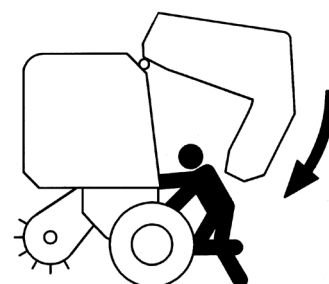


(12) チャンバーを開けて作業するときは

シリンダストップを必ず左右共にセットしてください。



守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

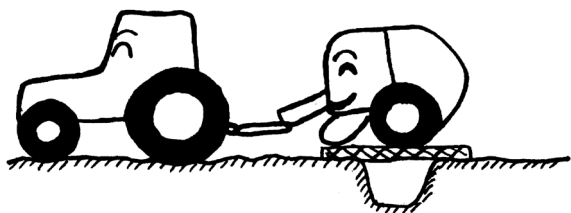




安全に作業するために

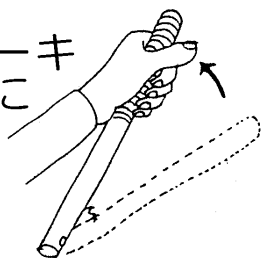
(13) 溝や畦を横断したり

軟弱な所を通るときは
スリップや転倒による事故を防ぐため
に、幅・長さ・強度が十分あるスリッ
プしないアユミ板をかけ、最低速度で
通ってください。



(14) 作業途中で運転席より離れるときは
平坦な場所に停車し、PTOを切り
エンジンを停止、駐車ブレーキを掛け、
本作業機側に車止めをしてください。

駐車ブレーキ
も忘れずに

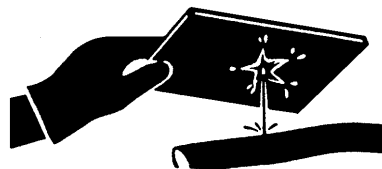


(15) 高圧油に注意してください

- ①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に
浸透する程の力があり、傷害の原因に
なります。
- ②高圧油による傷害を防止するために
配管・ホースなどの取外し前には必ず
残圧を抜いてください。
- ③圧力をかける前に配管・ホースなどは
正しく確実に締め付けてください。

④非常に小さな穴からの油漏れは、ほと
んど目に見えないことがあります。

手で油漏れを探すことは止めてくだ
さい。必ず、保護メガネをかけ、紙
などを使用して調べてください。



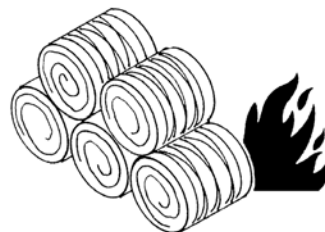
⑤万一、油が皮膚に浸透したときは、
強度のアレルギーを起こす恐れがあり
ますので、すぐに医療機関を受診して
ください。



(16) 乾草火災に注意

乾燥不十分な牧草をバールに成形する
と、バール内部からの発火により火災
が発生する危険があります。

バール成形後2～3日間は、風通しの
良い屋外に仮置きした後、屋内に収納
してください。



4. 公道走行

本機は公道走行に必要な装備を既に備えて
います。公道を走行する際は、7～15ページ
に示す項目を確認し、法令を遵守してくだ
さい。



安全に作業するために

公道走行するときは

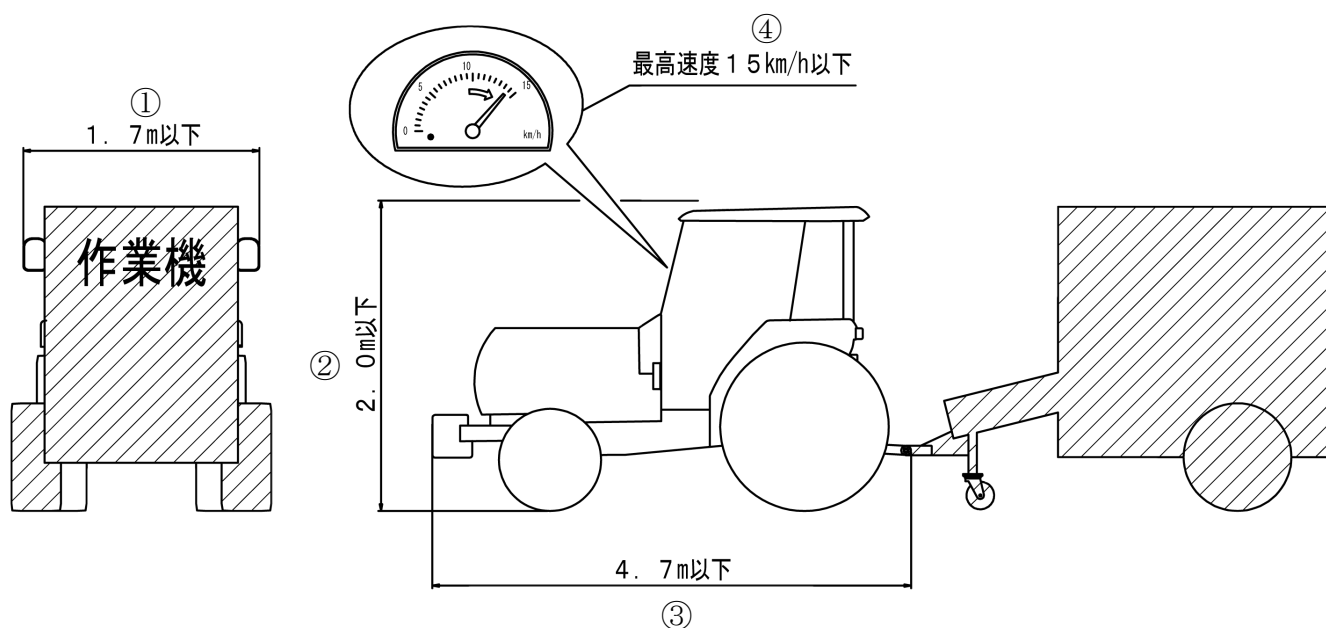
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、けん引タイプの作業機で公道を走行することができます。公道走行をする際は、下記項目を確認したうえで必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

(1) 必要な運転免許証について

トラクタの寸法が下表①～③の数値以内で④最高速度15km/h以下の場合は小型特殊免許で運行可能になりますが、下表①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許(農耕用に限る、も含む)とけん引免許(農耕用に限る、も含む)が必要となります。ただし、車両総重量750kgを超えない農耕作業用トレーラをけん引する場合、けん引免許(農耕用に限る、も含む)は必要ありません。

- | | |
|----------|-----------------------------|
| ① 全幅1.7m | ② 全高2.0m(安全キャブや安全フレームは2.8m) |
| ③ 全長4.7m | ④ 最高速度15km/h以下 |

下図を参考にご確認ください。





安全に作業するために

(2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

いずれの場合も農耕作業用トレーラ、農耕トラクタの使用者が保安基準適合性を確保する必要があります。

けん引車の農耕トラクタの種別	農耕作業用トレーラの種別と手続き
小型特殊自動車	[小型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※1 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要はありません。
大型特殊自動車 (自動車検査証にけん引時の速度制限の基準緩和を受けた旨の記載があるもの)	②全幅が2.5mを超えるもの ・道路管理者(地方整備局、各都道府県、各市町村等)に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。 ③長さが12mまたは全高3.8mを超えるもの ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。
大型特殊自動車 (上記以外のもの)	[大型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※2 ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ②長さが12mまたは高さが3.8mを超えるもの、その他オーバーハング等の基準を超えるもの ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。

※1 全幅2.5m、全長12m、全高3.8mを超えない大きさのもの

※2 農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が12mを超える場合、道路管理者(地方整備局、地方自治体等)から、特殊車両通行許可を受ける必要があります。

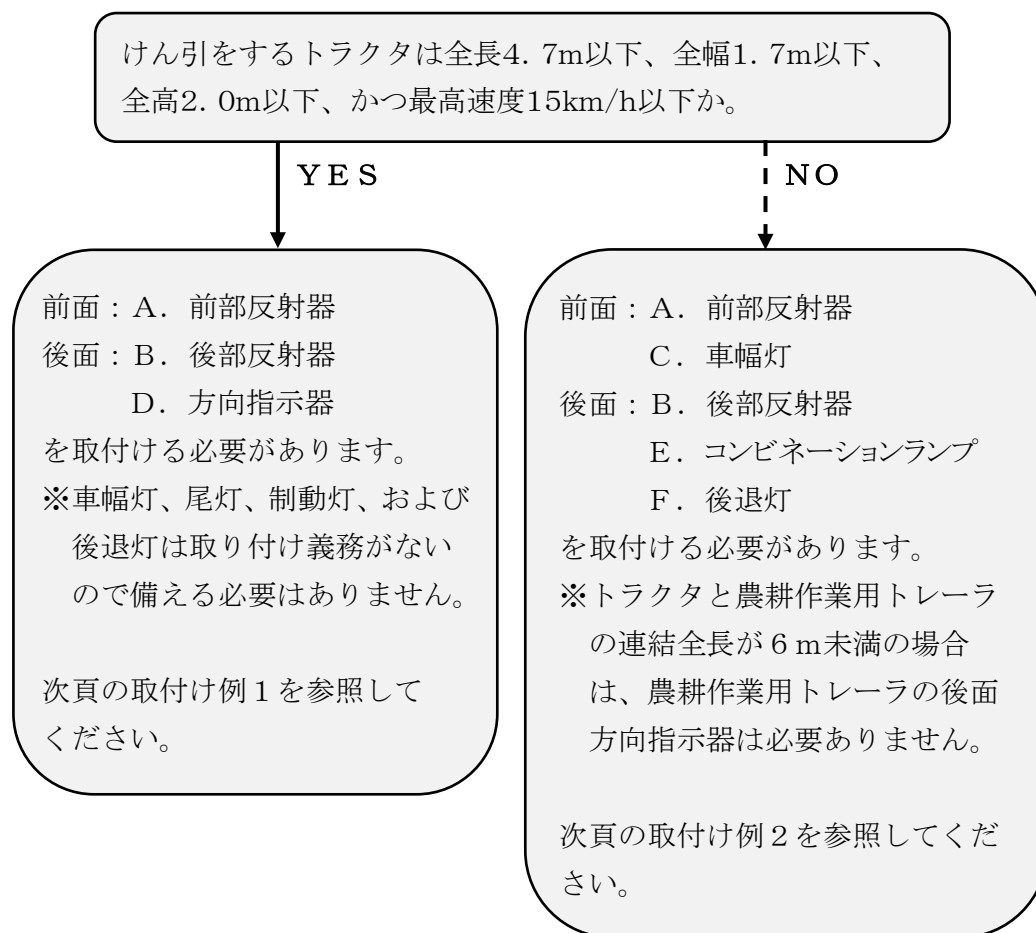


安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～③を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①トラクタの大きさ、最高速度による灯火器取付け位置



A.前部反射器	B.後部反射器	C.車幅灯	D.方向指示器
			
E.コンビネーションランプ		F.後退灯	
			



安全に作業するために

● 装備の取付け位置

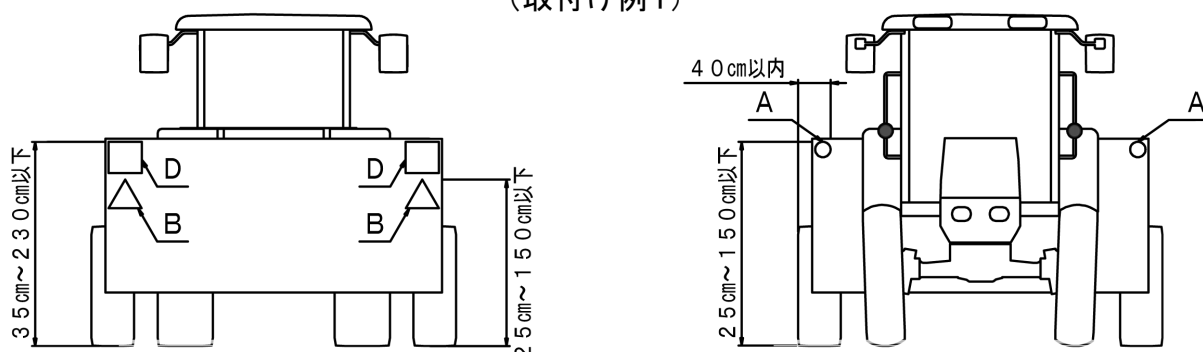
- ・ 道路運送車両の保安基準により、各種灯火器類の取付け位置は定められています。

○ 前部反射器(リフレクター)	最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
○ 後部反射器(リフレクター)	最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
○ 車幅灯(ポジションランプ)	最外側から15cm以内、高さは地上25cm以上210cm以下
○ 方向指示器(ウインカー)	最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上230cm以下
○ 尾灯(テールランプ)	最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
○ 制動灯(ブレーキランプ)	最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
○ 後退灯(バックランプ)	高さは可能な限り25cm以上120cm以下

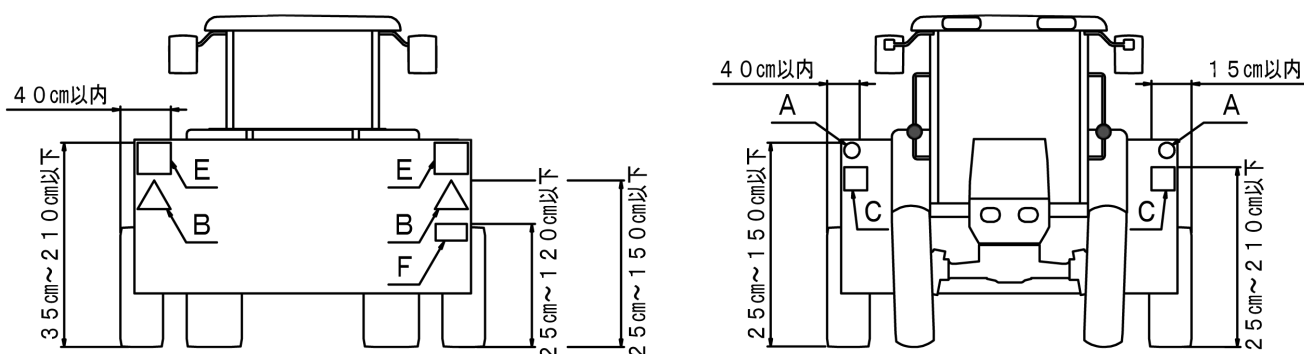
- ・ 車幅灯は前方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ コンビネーションランプ※は後方から確認(視認)できる位置に上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・ 後退灯は後方から確認(視認)できる位置に上記条件を満たすように取付けてください。

※コンビネーションランプ・・・方向指示器、尾灯、制動灯が一体化したもの

(取付け例1)



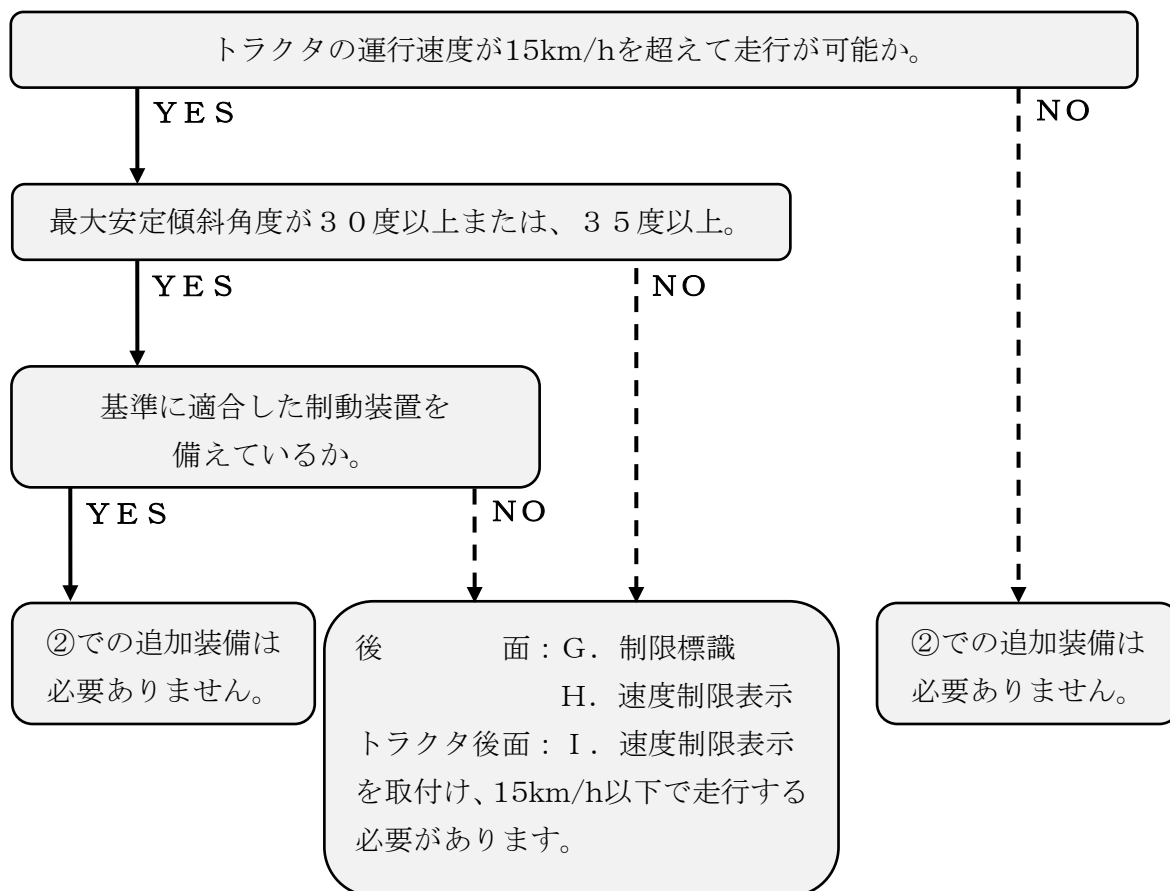
(取付け例2)





安全に作業するために

②トラクタの運行速度



●最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h以下で走行してください。

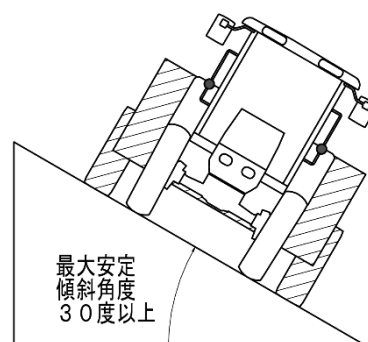
<安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上または、35度以上(車両総重量が車両重量の1.2倍以上または、積載により重心高さが上がるもの)であれば、通常ので道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

- ・運行速度15km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Gを作業機後面に表示、
Hを作業機後面に表示、

Iをトラクタ後面・運転席に表示
を行う必要があります。





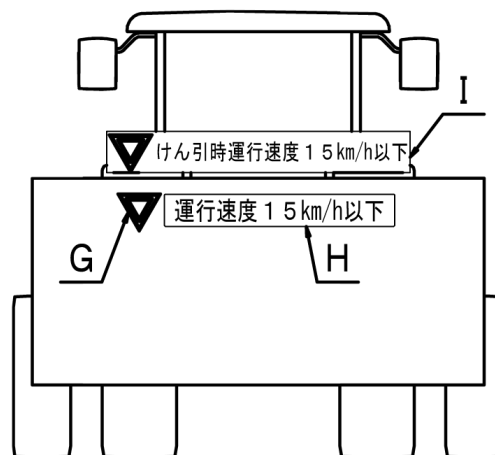
安全に作業するために

● 装備の取付け位置

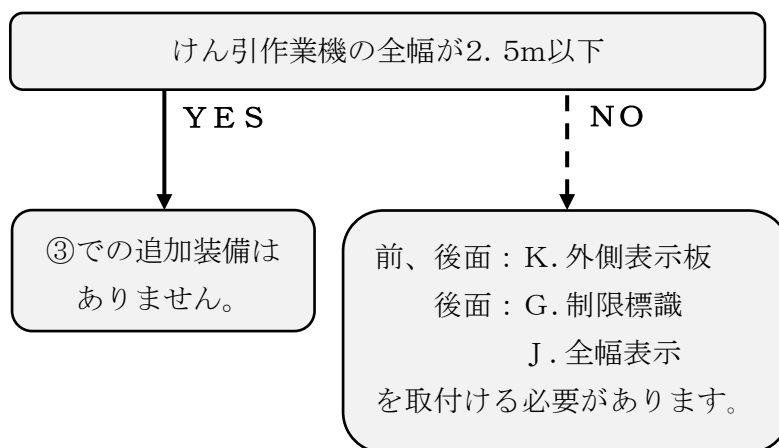
- ・ G、H、I は後方から確認できる位置に取付けてください。
- ・ I は運転席にも表示する必要があります。

(取付け例)

G. 制限標識	H. 速度制限表示 (作業機側)
I. 速度制限表示 (トラクタ側)	



③ 作業機装着時の全幅



G. 制限標識	J. 全幅表示	K. 外側表示板

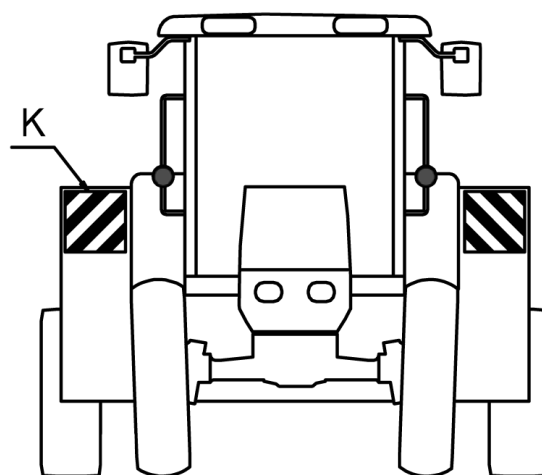
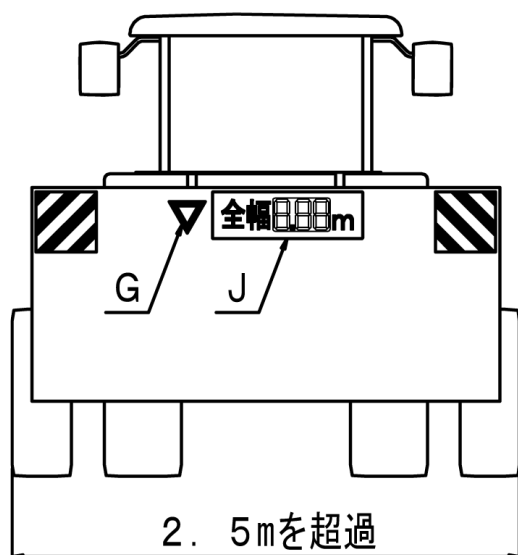


安全に作業するために

● 装備の取付け位置

- ・ G、J は後方から見やすい位置に取付けてください。
- ・ K は前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。

(取付け例)





安全に作業するために

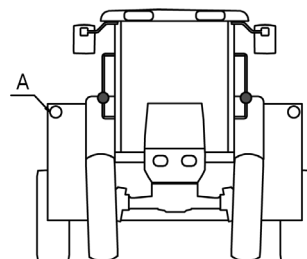
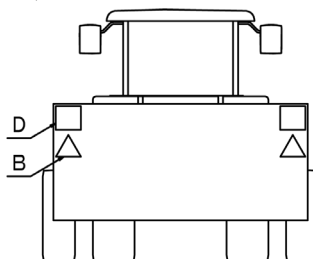
灯火器類・ステッカー取り付け例

灯火器取付け位置

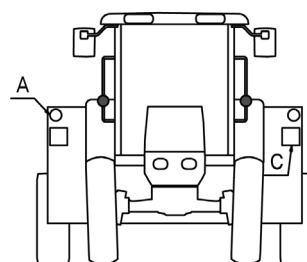
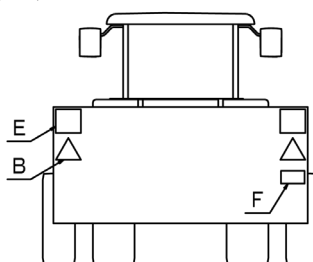
車幅灯
前部反射器
尾灯
後部反射器
制動灯
方向指示器
後退灯

全長 4.7m以下、
全幅 1.7m以下、
全高 2.0m以下、
最高速度 15 km/h
以下の場合

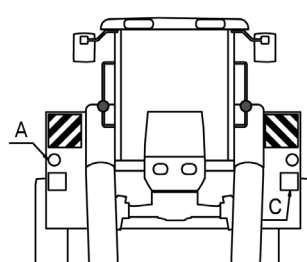
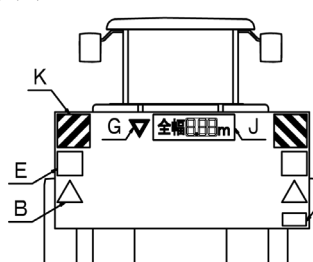
(ア)



(イ)



(ウ)



全幅が 2.5mを
超える場合

灯火器・ステッカー

A. 前部反射器

B. 後部反射器

C. 車幅灯

D. 方向指示器

E. コンビネーションランプ

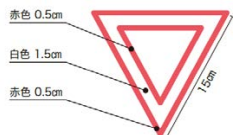


F. 後退灯

G. 制限標識

H. 速度制限表示
(作業機側)

I. 速度制限表示
(トラクタ側)



運行速度 15 km/h 以下

けん引時運行速度 15 km/h 以下

J. 全幅表示

K. 外側表示板

全幅 8.88m



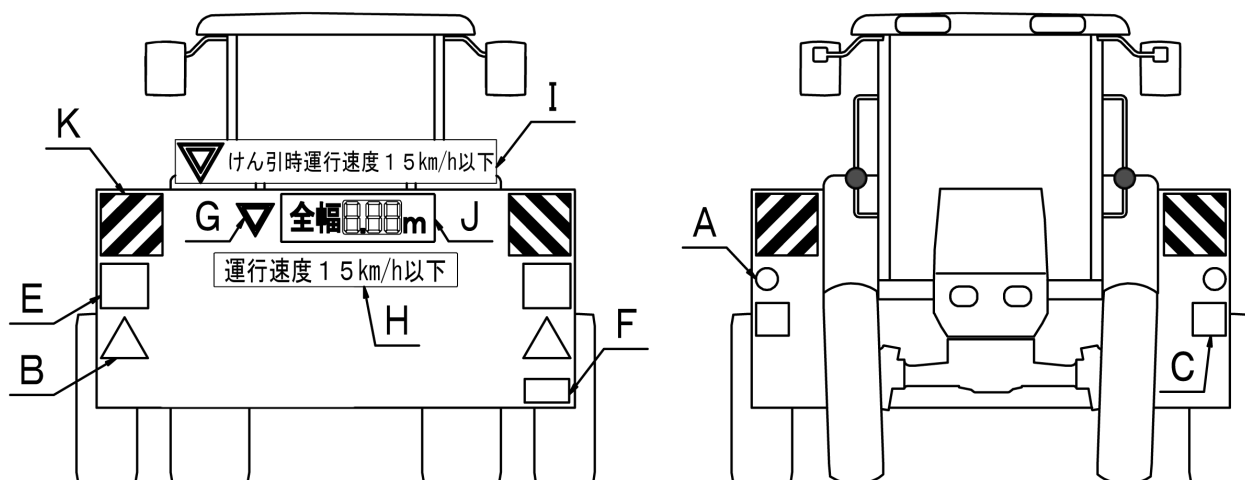
※全幅2.5mを超過する場合は、道路管理者(国道：地方道路局、県道：各都道府県、市道：各市町村)から特殊車両通行許可を得る必要があります。



安全に作業するために

- p.11「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

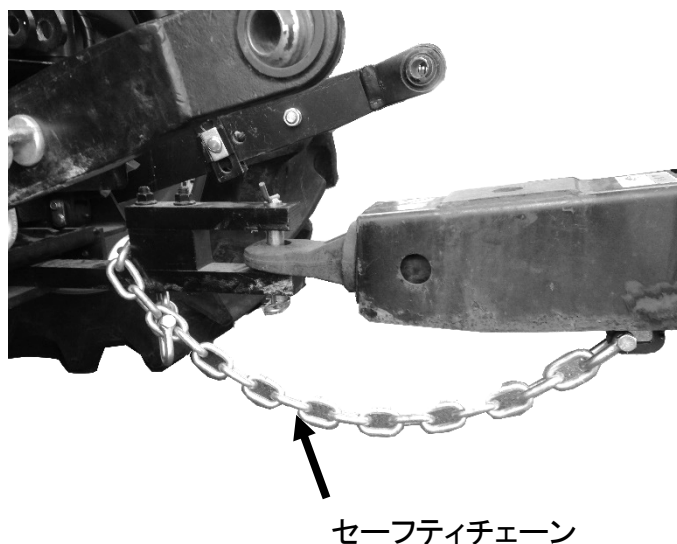
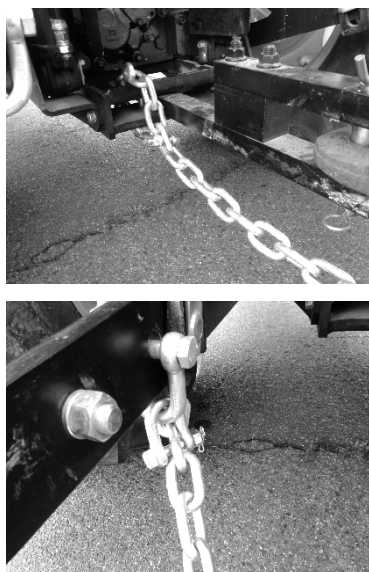
例：(ウ) に速度制限表示を追加



- 灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカーが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

(4) 農耕作業用トレーラの構造要件(分離時の連結維持構造)に関して

農耕トラクタが農耕作業用トレーラをけん引した際に、不意に連結装置(ドローバ等)が分離したときでも農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結を保つことができる構造でなければ道路走行できません。セーフティチェーン等を備え、けん引時にはセーフティチェーン等をねじ止め等でつないで道路を走行してください。



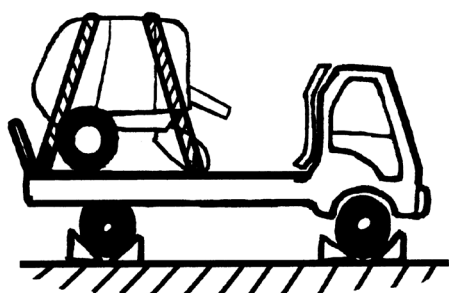
詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/kouido.html>)をご覧ください。
その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店へご相談ください。



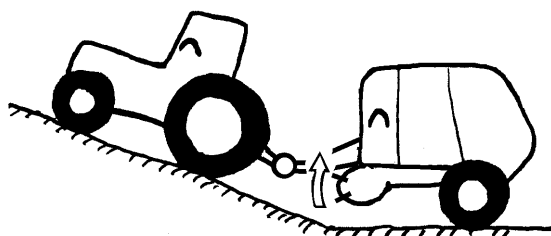
安全に作業するために

5. 道路走行・輸送するときは

- (1) トラックなどへの積み込み・降ろしは平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを停止し、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。積み込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



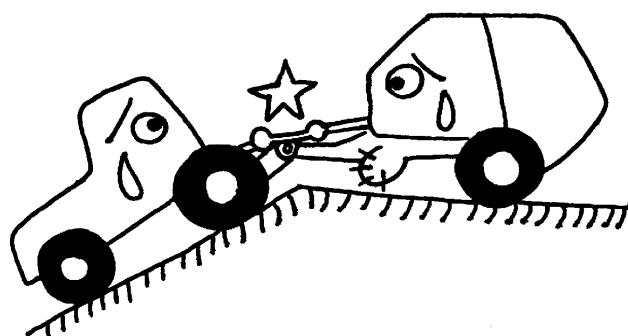
- (2) ピックアップを移動位置にする
特にほ場から出入りする場合は、ピックアップの破損事故が起こりやすいので、最も上げた状態にしてください。



- (3) ロワーリンクを上げた時はVヒッチとジョイントが当たらないことを確認してください。

- ①ローワーリンクを上げ過ぎないでください。
②ローワーリンクを上げたままほ場を出入りする際は、トラクタとロールベアラの姿勢が変化してVヒッチとジョイントが近接し、ぶつかる恐れがあるため注意してください。

そうしないと、ジョイントや本機の破損の原因となります。

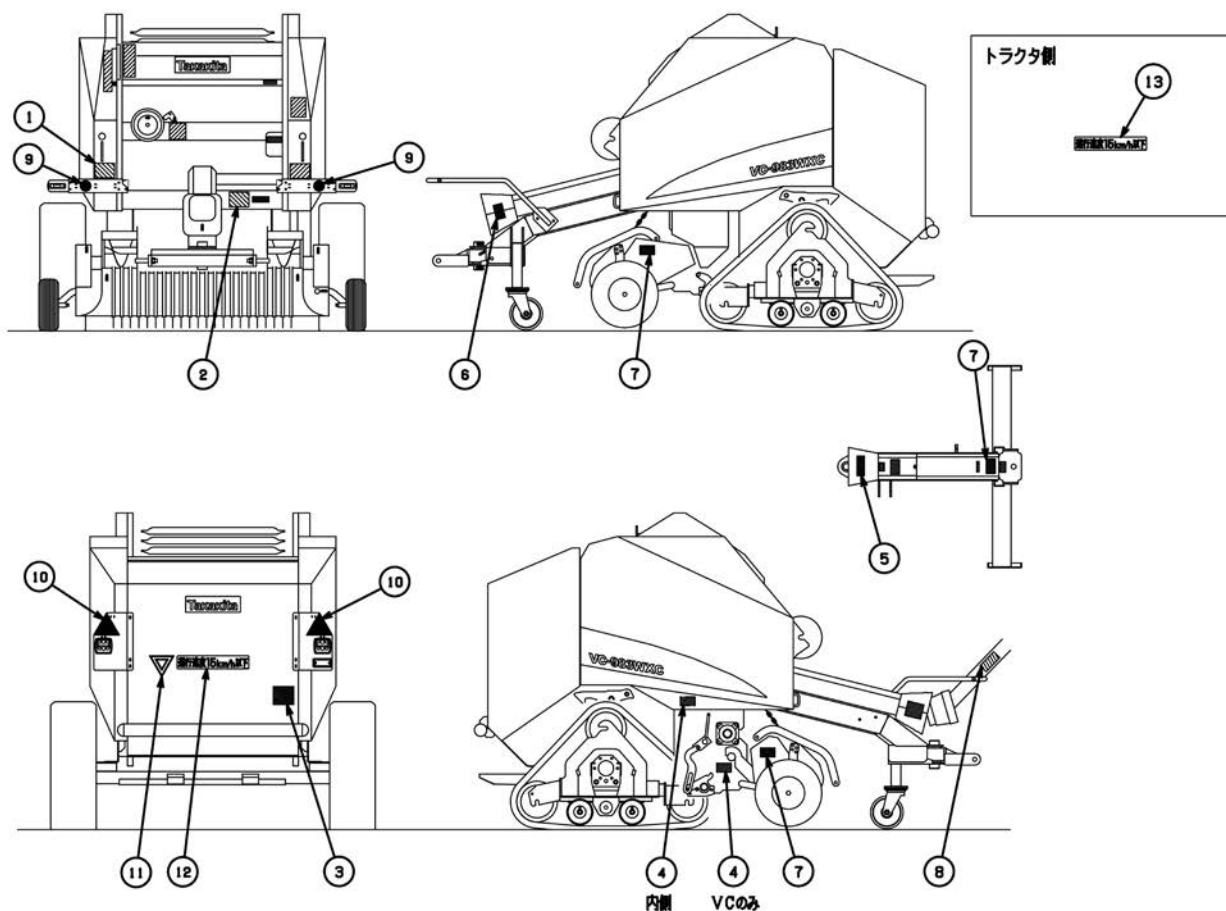


以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で  印を付けて安全上の注意事項を表記しております。



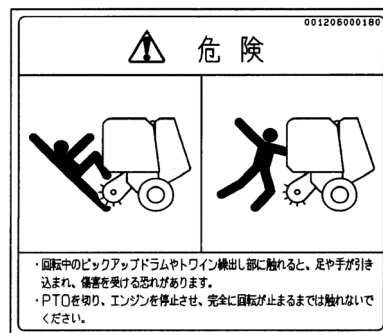
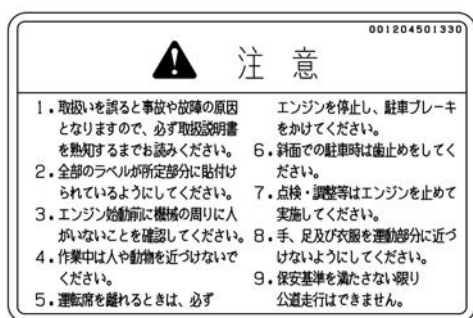
安全に作業するために

6. 警告ラベルの貼付け位置



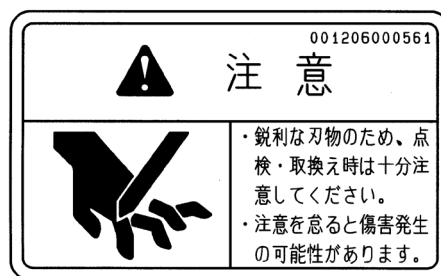
①部品コード 00120-4501-330

②部品コード 00120-6000-180



③部品コード 00120-6000-310

④部品コード 00120-6000-561





安全に作業するために

⑤部品コード 00120-6000-610



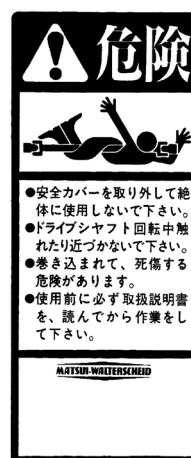
⑥部品コード 00120-6000-750



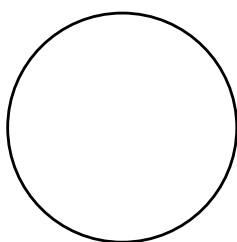
⑦部品コード 00120-6000-800



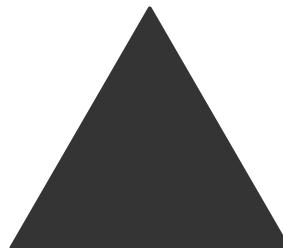
⑧部品コード 00130-6951-010



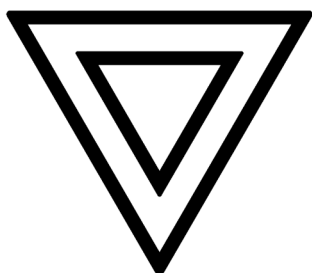
⑨部品コード 00120-6002-280



⑩部品コード 00120-6002-340



⑪部品コード 00120-6002-260



⑫部品コード 00120-5200-050

運行速度15km/h以下



安全に作業するために

⑬部品コード 00120－5200－030

運行速度15km/h以下

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、剥がれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、稲ワラ、牧草、麦稈等をロール梱包する作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、J A（農協）、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No.（S E R－N o）
- ご使用状況は？
（どんな条件でどんな作業をしていたときに）
- どれくらい使用されましたか？
（約〇〇アール、または約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

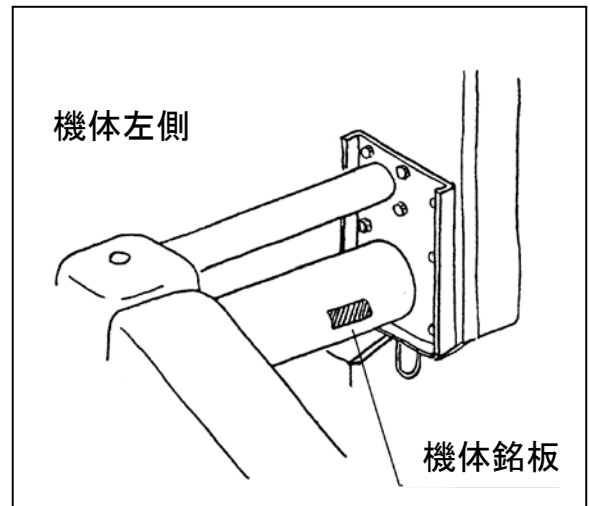
品 名	クローラロールベアラ	クローラロールベアラ
型 式	V R－9 8 3 W X C	V C－9 8 3 W X C
機 体 No. (SER－No.)		
購入年月日	年 月 日	
販売店名	TEL : ()	

車台番号について

本製品には、上記機体 No. と関連させて機械の同一性を管理する車台番号が打刻されています。
打刻位置と打刻形式は右図を参照ください。

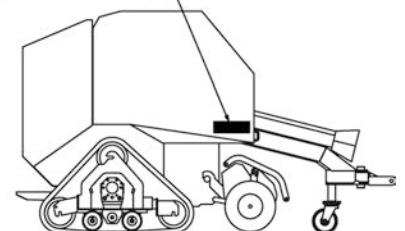
車台番号
VR－981C－****

（機体銘板貼付け位置図）

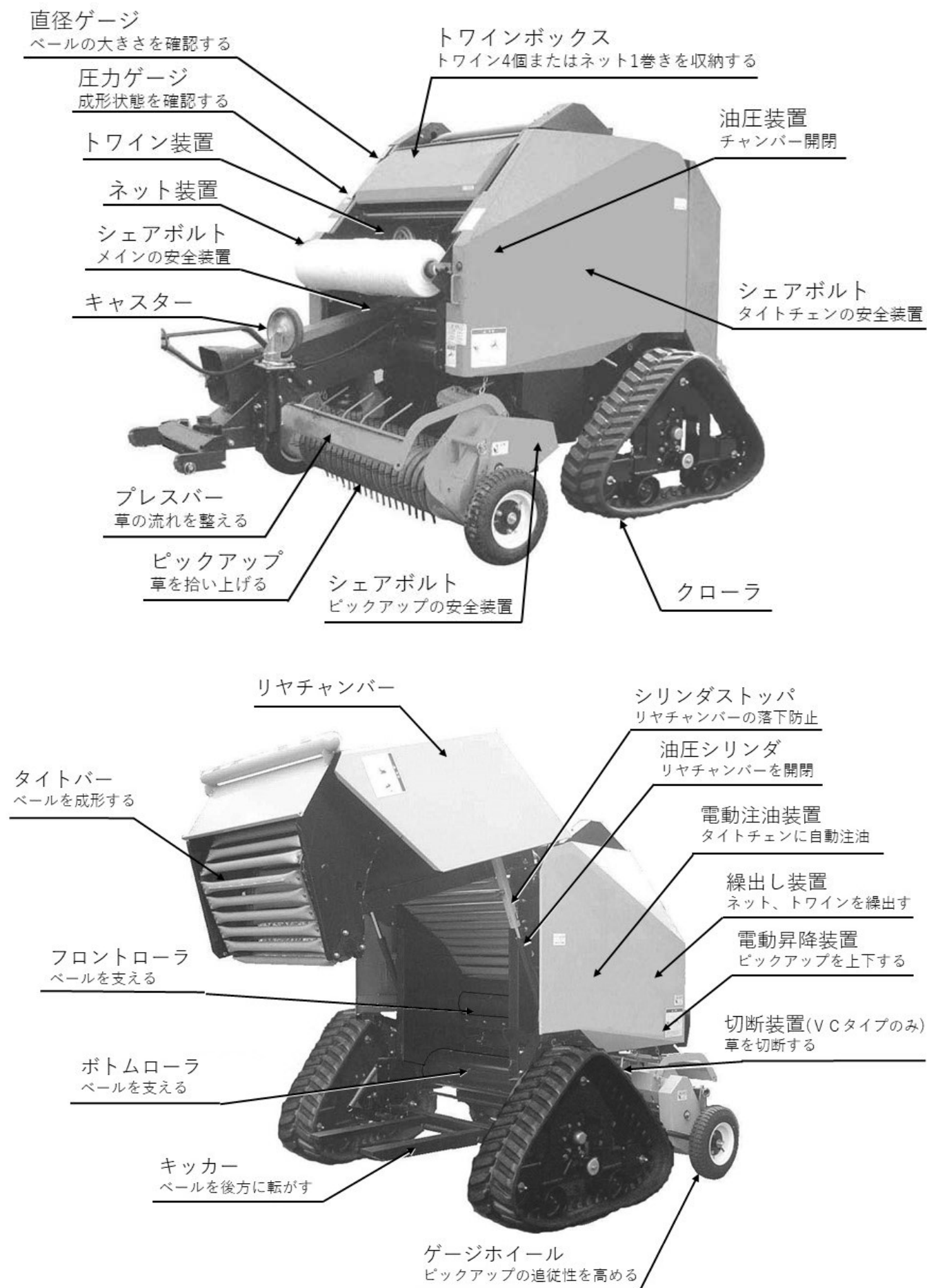


車体番号打刻位置

フロントケース右下(右カバー内)

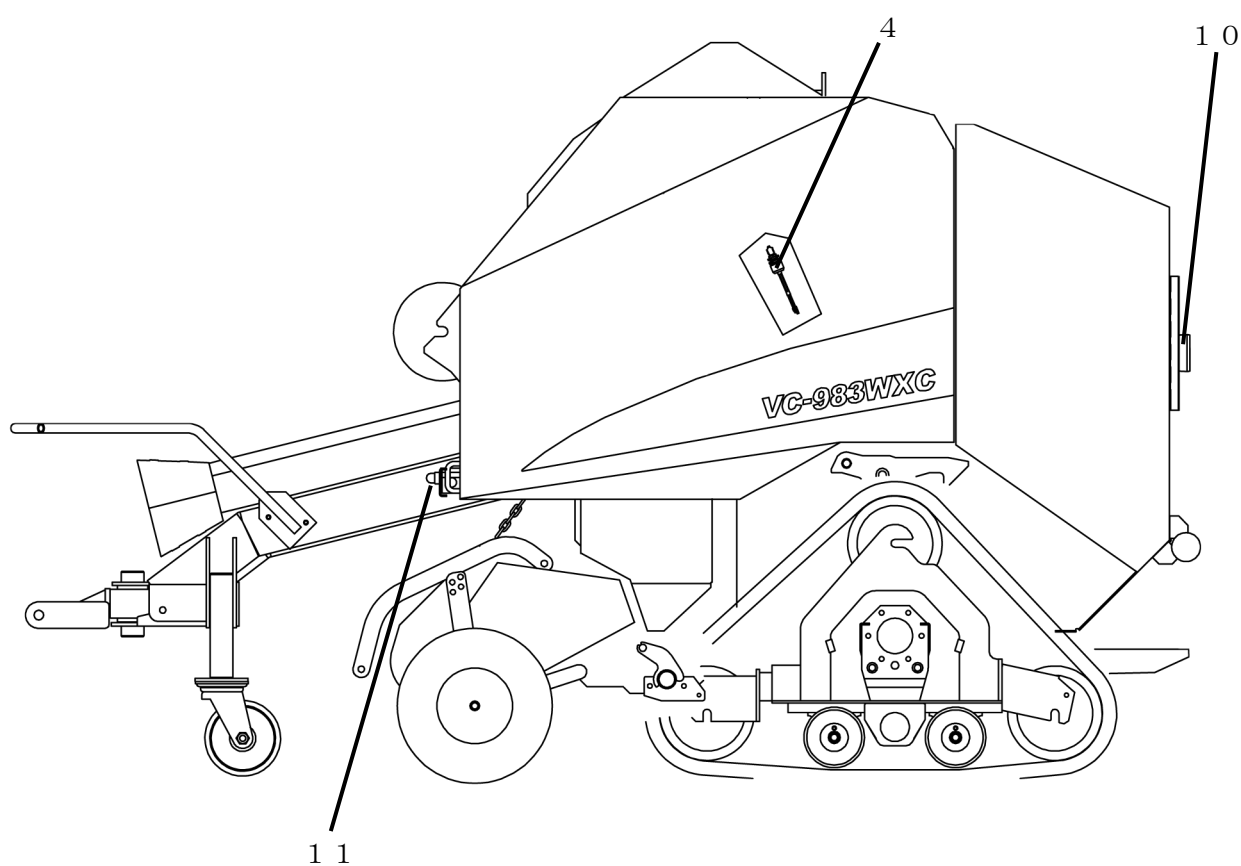
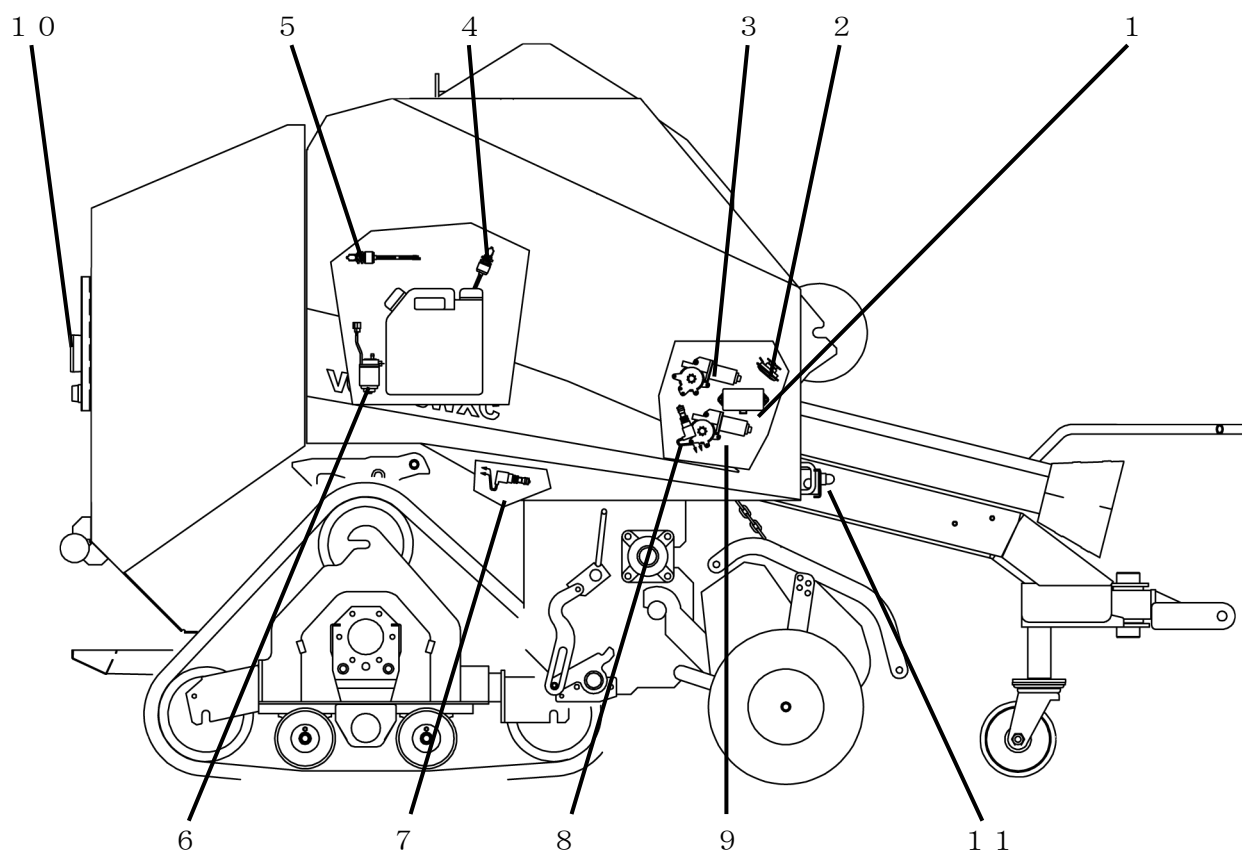


各部の名称とはたらき



各部の名称とはたらき

モータ、スイッチ、ランプ類

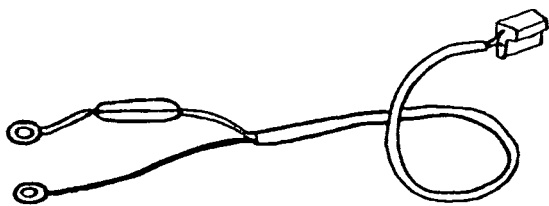


各部の名称とはたらき

番号	名 称	は た ら き
1	繰出しコントローラ	満了感知してからネット／トワインを巻き付けるまでの動作を制御します。
2	ホーン	繰出しモータが動作するときに鳴ります。
3	繰出しモータ	ネット／トワインを繰り出します。
4	満了感知スイッチ	チャンバー内のベールが満了になったことを検出します。
5	チャンバー閉スイッチ	チャンバーが閉まり、チャンバーロックがかかったことを検出します。 チャンバーロックが最後までかかるように、チャンバーを全閉した後も2秒間程度チャンバーを閉じ続けてください。
6	注油ポンプ	チェンに注油します。
7	ナイフスイッチ	ナイフが降りているか検出します。
8	カムスイッチ	カムの初期位置を検出します。
9	ピックアップモータ	ピックアップを上下させます。
10	コンビネーションランプ(左右)	ウィンカ、ブレーキランプ、尾灯を備えたランプ
	後部反射器(左右)	赤い正立三角形の反射器
	後退灯(右側のみ)	後退するときに点灯するランプ
11	車幅灯(左右)	尾灯と共に点灯するランプ
	白色反射器(左右)	白い円形の反射器

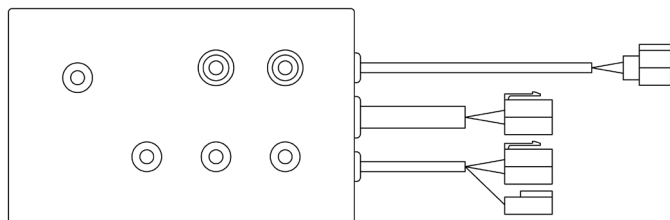
各部の名称とはたらき

付 属 品



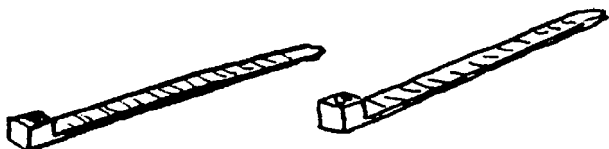
電源コード

バッテリーより電源を取り出します。
12V専用。30Aヒューズ付き。



コントロールボックス

ピックアップ上下、チャンバー開閉などの
操作を行います。
15A、20Aヒューズ付き。



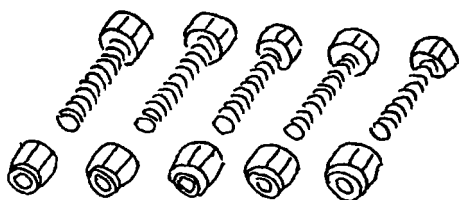
リピータイ

ロールベアラ側からの配線を固定します。



I・II兼用カラー

カテゴリⅡのトラクタの場合、ローリンク
ピンに入れて使用します。

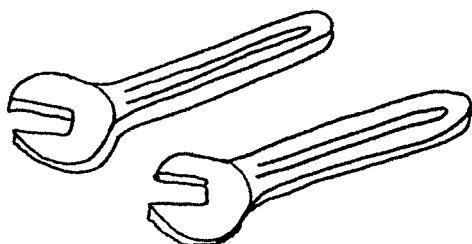


ロールベアラシアボルトセット

- ・M8×30(8T全ネジ) と
M8タフロックナットが10セット。
- ・M8×40(8T半ネジ生地)と
M8フニロンが10セット。



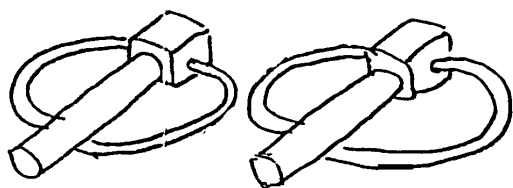
逆転ハンドル



スパナ

2本

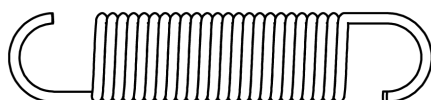
各部の名称とはたらき



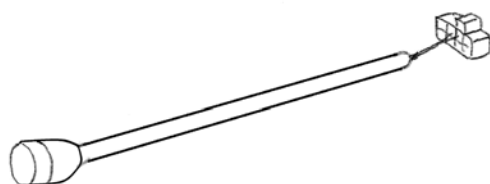
リンチピン 10 2個



オイルサシ 1個

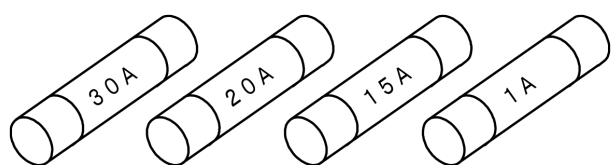


ブレーキバネ 1個



テールランプヘンカンハーネス 1個

トラクタでコンビネーションランプのコネクタが
DIN規格の場合、ヘンカンハーネスを取り
付けることで接続できるようになります。

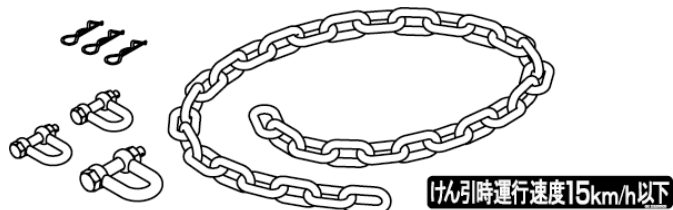


ヒューズ 30A 1ケ

ヒューズ 20A 1ケ

ヒューズ 15A 1ケ

ヒューズ 1A 1ケ



公道走行用チェーンおよびシャックル

・チェーンφ11(1.5m) 1ケ

・ボルトシャックル 12 2ケ

・ボルトシャックル 14 1ケ

・抜け止めスナップピン 3ケ

トラクタ用速度制限ステッカー

トラクタへの装着

！ 警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
 - 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
 - ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを停止し、PTOを切ってから確実に接続してください。
- 以上のことを守らないと傷害発生のおそれがあります。

1. 装着のしかた

◆装着順序

左ロワーリンク、右ロワーリンクの順序で取り付けてください。
カテゴリⅡのトラクタには付属のⅠ・Ⅱ兼用カラーを取り付けてください。



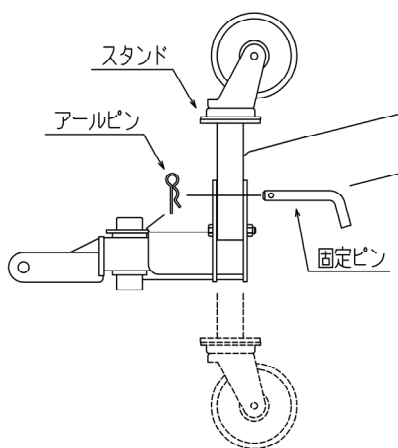
Ⅰ・Ⅱ兼用カラー

◆チェックチェーンで横振れ調整

運転および作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェーンでトラクタ中心にロワーリンクが左右に2～3cm程度の振れになるように調整してください。

◆スタンドを上げる

ロワーリンクでヒッチを少し上げてからスタンドを上げてください。



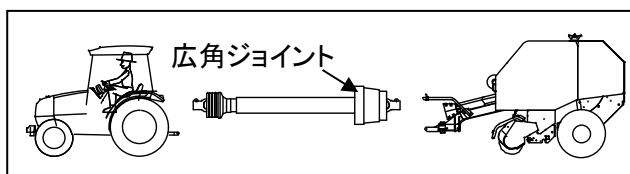
2. ユニバーサルジョイントの取付け

◆取り付け順序

本機入力軸に取り付けてから、トラクタPTO軸に確実に取り付けてください。

注意

本機側は広角ジョイントです。
逆に取り付けると、ジョイントが破損するおそれがあります。

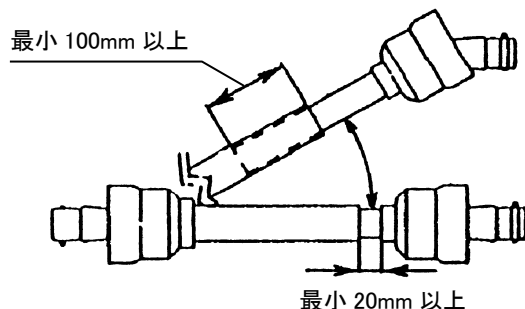


◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さはロワーリンクによる本機の上昇・下降により変化します。
先にジョイント長さを確認し、長すぎる場合は、次図の寸法が確保できるように切断してください。

注意

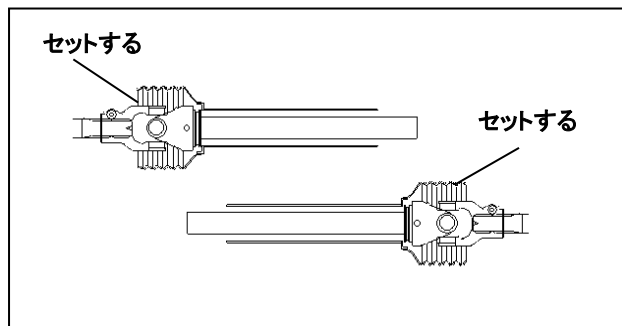
ジョイントが長すぎるとジョイントがスライドせず、突き上げてミッションを破損させるおそれがあります。



トラクタへの装着

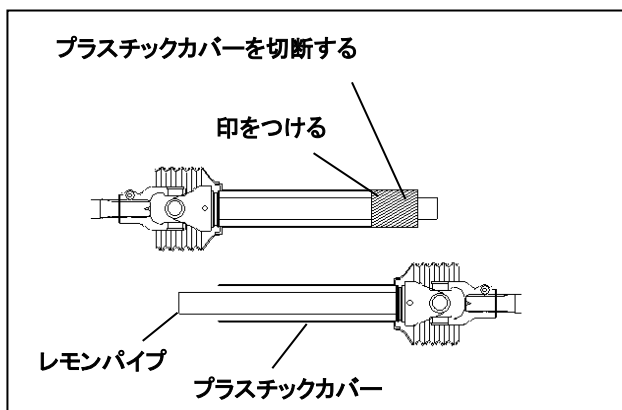
◆ユニバーサルジョイントの切断方法

- ①ユニバーサルジョイントの半筒をトラクタと作業機にセットします。



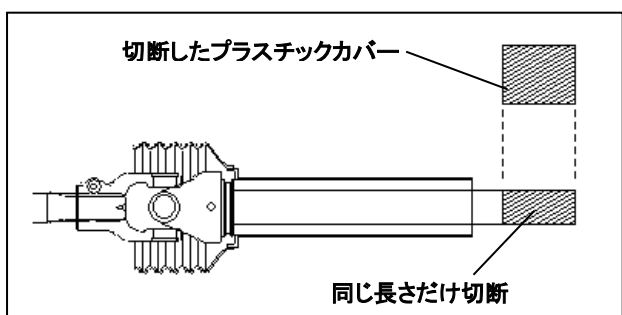
- ②ロワーリンクを上下して、最短になるところで互いに合わせます。

- ③プラスチックカバーの重なりより約4cm内側に印をつけ、ユニバーサルジョイントを外します。

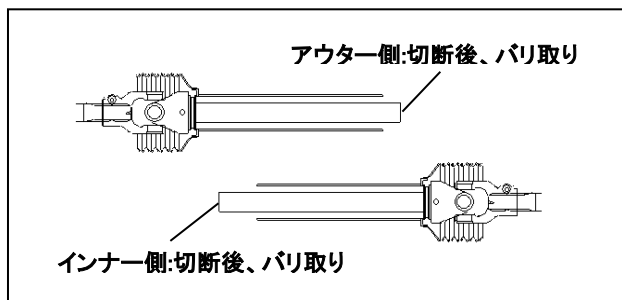


- ④印をつけたところからプラスチックカバーを切断します。

切断したプラスチックカバーと同じ長さだけ、もう一方のプラスチックカバーとレモンパイプのアウトター、インナーをそれぞれ切断してください。



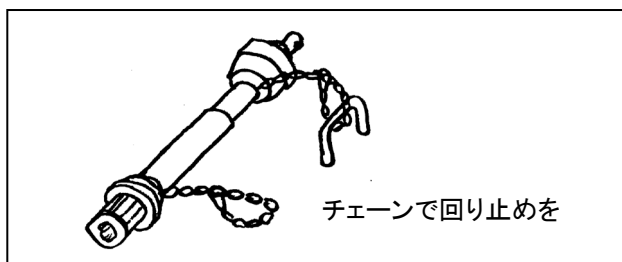
- ⑤アウトター、インナー両方ともにバリ取りを行い、切り粉を掃除した後、スムーズにスライドすることを確認してください。



- ⑥インナーの外側にグリスを塗って再度組んでください。

◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけて、しっかりと固定してください。



トラクタへの装着

3. コントロールボックスの接続

◆電源はトラクタの

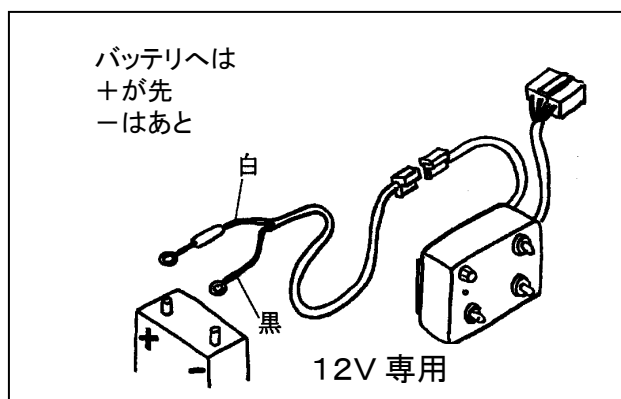
バッテリーから取出します

コントロールボックスの電源は、トラクタのバッテリーより取り出します。

◆接続できるバッテリーの

電圧は12Vです

24Vのバッテリーに接続しないでください。間違って接続すると、コントロールボックス内部および電気系統が破損するおそれがあります。



◆(+)、(-)の接続を間違えないように

白色線はバッテリーの(+)へ接続

黒色線はバッテリーの(-)へ接続

注意

(+)、(-)の接続を間違えると、コントロールボックスの電源ランプは点灯しません。

警告

接続の順序は、(+)側から行ってください。

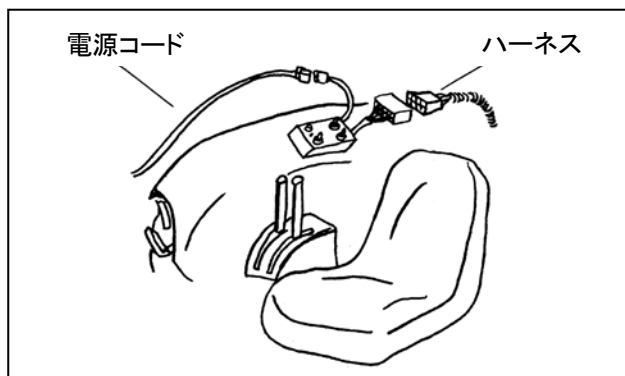
また、取り外すときは、(-)側から行ってください。

逆にすると、火花が飛び危険です。

◆コントロールボックスの取付け

コントロールボックスの裏側に永久磁石を装着しています。

操作しやすいように、トラクタの運転席右側の金属製フェンダー等に吸着させてご使用ください。



◆配線の接続

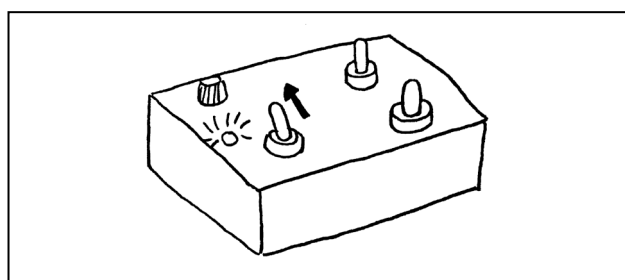
電源コードとハーネスをそれぞれコントロールボックスに接続します。

配線が作業の邪魔にならないようにトラクタに固定してください。

◆電源スイッチを入れる

電源スイッチを『自動』に入れてください。

電源ランプが点かないときは、コントロールボックス内のヒューズ、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリーの(+)と(-)が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。



電源スイッチを

◆作業

『トワイン自動』に入れてランプがつくか。

こ保管

作業終了後は、電源コード側のコネクタより切り離し、水等がかからない屋内で保管してください。

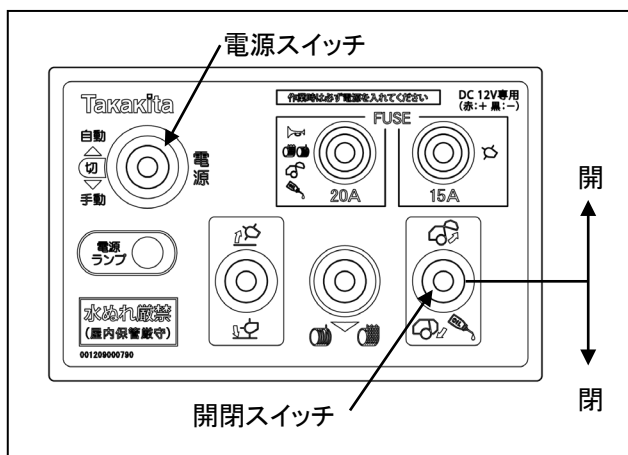
運転に必要な装置の取扱い

1. 油圧装置

◆チャンバー開・閉の油圧装置です
本機は、ポンプ・タンク・バルブ一体型の油圧パッケージを装備しています。

◆PTOが回転している間は作動します
油圧パッケージは、PTOが回転している間、油圧力が発生し、PTOの回転が止まっていると油圧力は発生しません。

◆チャンバーの開閉操作のしかた



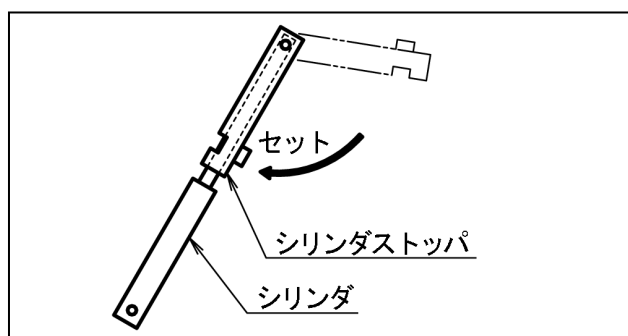
電源スイッチを「自動」に入れて、トラクタのPTOを回転させます。

開閉スイッチを向こう側に倒すとチャンバーが開き、手前に倒すと閉じます。

閉じる時はチャンバーロックを確実にするため、チャンバーが閉じた後、もう一度開閉スイッチを手前に倒してください。

◆開けたままでロックするときは

点検・整備等でチャンバーを開けたままで作業するときは、左右共必ずシリンダストッパをセットしてください。



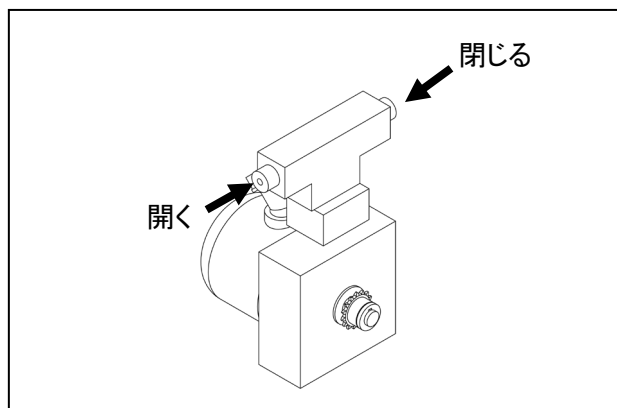
！ 注意

左右共必ずシリンダストッパをセットしてください。チャンバーを開けた状態での油圧装置の点検整備は、絶対に行わないでください。

これを怠ると重大な傷害事故につながるおそれがあります。

◆電装がトラブルを起こした場合

必ず電源スイッチを切ってからPTOをゆっくり回転させ、先の尖ったもので手動スイッチを押してください。



注意

本機はパイロットチェック弁を装備していますので、閉じる際にもPTOを回転させていないと動作しません。

！ 警告

この作業を行う場合、必ず二人で合図をしながら、慎重に行ってください。

これを怠ると傷害が発生するおそれがあります。

運転に必要な装置の取扱い

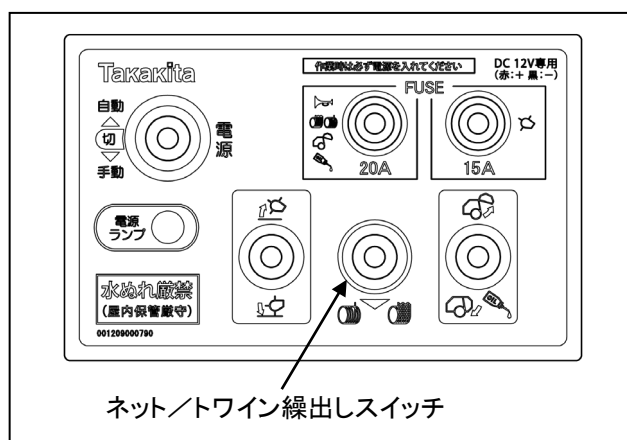
2. コントロールボックスの取扱い

◆自動繰出しでご使用ください

成形されるベールが、設定された圧力になるとブザーが鳴り、約2秒後に自動的にネットまたはトワインを繰り出します。

◆手動で繰出すとき

作業の途中で巻付けを行いたい場合は、コントロールボックスの繰出しスイッチを操作してください。
ブザーが鳴り、約2秒後にネットまたはトワインが繰り出されます。



注意

電源ランプが点灯しないまま作業を行うと、巻付けができないだけでなく機械を破損させる原因となりますので、必ず点灯していることを確認してから作業してください。

◆巻付けをやり直す

コントロールボックスの手動繰出しスイッチを操作すると何度でも繰り出しができます。

注意

誤って手動繰出しを行った後で自動繰出し作業をする場合は、いったん電源を切ってください。
再度電源スイッチを「自動」の位置にしてください。

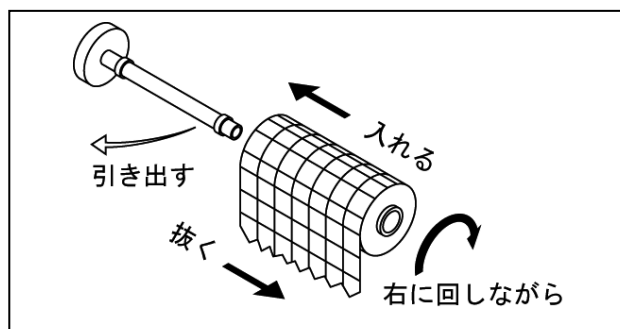
◆作業終了時の収納

作業終了後、コントロールボックスは電源コード側コネクタより切り離し、水濡れのないように屋内で保管してください。

3. ネットの取付け

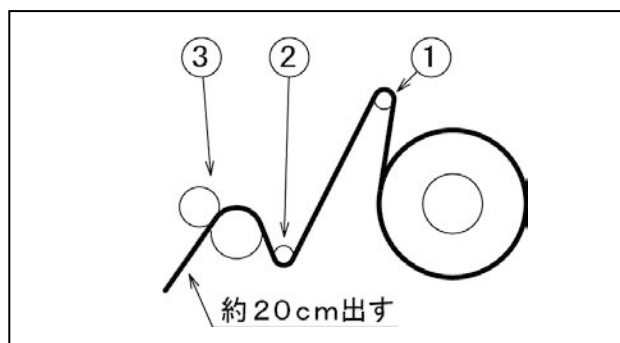
◆ネットを入れる

次図のようにネットを入れてください。
ネットの端はあらかじめ20cmほど引き出しておきます。



◆ネットを通す

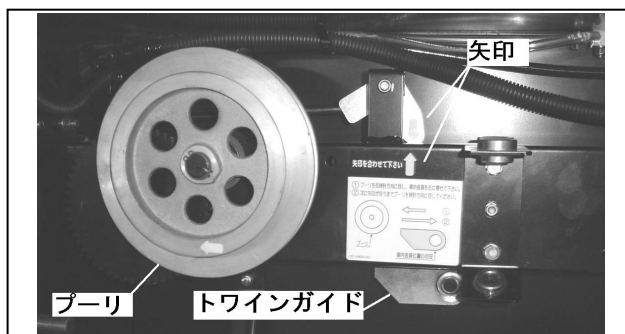
①～③の順に束ねて通してください。
ネットは自動的に広がります。
通し終わったら、たるみを取りながら本体にセットしてください。



◆トワインガイドの位置を確認する

トワインガイドが次図の位置にあるかを必ず確認してください。
位置が違っていれば、プーリを回してトワインガイドをいったん左側に動かしてからマークの位置にくるようにしてください。

運転に必要な装置の取扱い

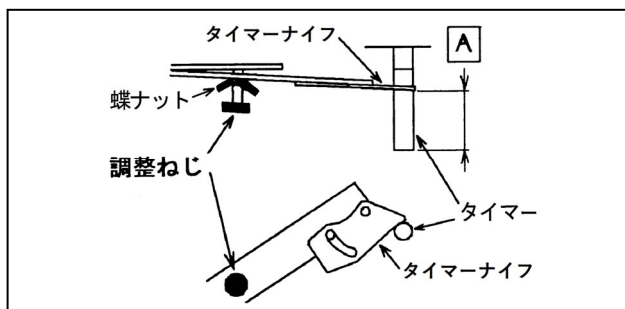


注意

トワインガイドの位置が間違っているとネットが切断されません。

◆巻き数を設定する

ネットの巻き数は右カバー内にある調整ねじで無段階に調整できます。調整ねじを締めると少なく、緩めると多く巻けます。



タイマーナイフをタイマーに乗せた時、**A**の長さを希望する巻き数に調整してください。

下表は**A**の長さとの巻き数の目安です。

例えば、直径90cmで2.5回巻きにしたい場合は28mm、直径100cmで3回巻きにしたい場合は39mmとなります。

直径 (cm)	巻き数(回)			
	2	2.5	3	3.5
90	21	28	35	42
95	22	30	37	44
100	24	32	39	47

禁止

ナイフにオイル・グリスを塗布すると、ホコリ等が付着し動きが悪くなります。塗布しないでください。

◆巻付けできる個数

1巻きのネットで巻付けできるボール個数の目安は下表の通りです。

例えば、直径90cmの2.5回巻きでは約280個、直径100cmの3回巻きでは約210個となります。

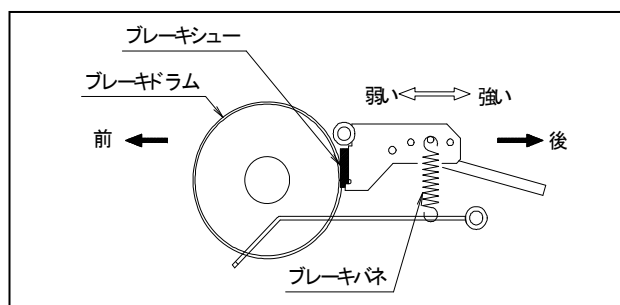
φcm	(2回)	2.5回	3回	3.5回
90	350	280	230	200
95	330	260	220	190
100	310	250	210	180

注意

巻き数はPTOの回転速度で増減しますので、出来あがったボールを見ながら設定値を決定してください。

◆ブレーキ力を調整する

- ・ブレーキが弱いとネットが広がらず、強いと切れやすくなります。
- ・ブレーキ力は、ネットの後ろ側にあるブレーキバネで調整します。
- ・次図のように、ブレーキバネが切れ易い時は前(弱い)へ、広がらない時は後ろ(強い)へ、掛け替えてください。
- ・それでもブレーキ力が弱い場合は、付属のブレーキバネに交換してください。
- ・ネットロールを前に出すと、簡単に調整できます。



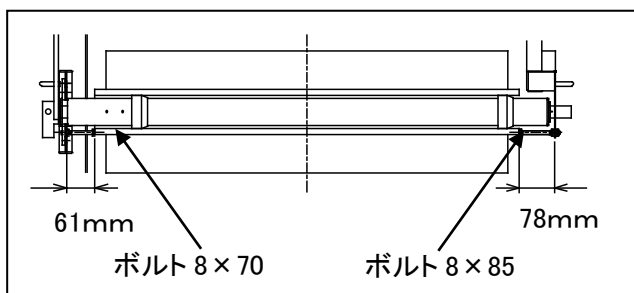
注意

ブレーキドラムが錆びていると、最初の数ボールはネットが切れやすくなります。また、ブレーキシューの減りも早くなります。

運転に必要な装置の取扱い

◆90cm幅のネットを取り付ける場合

付属のボルト・ナットを使用し、ボルトの頭がネットの紙筒に軽く接触するように取り付けてください。

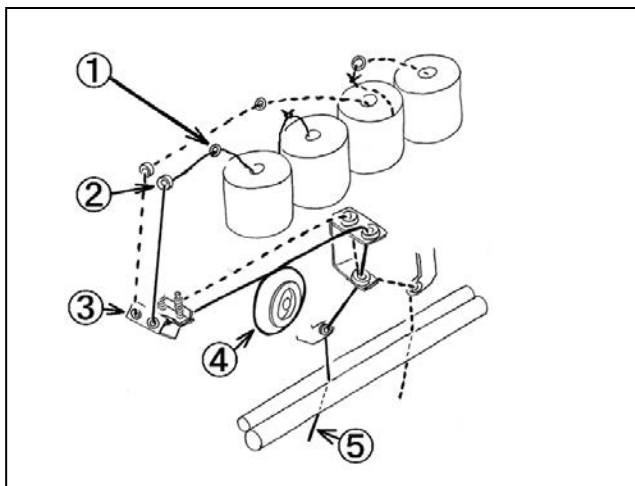


ボルト頭から取り付け部までの寸法を示しています。上記寸法は参考です。現物に合わせて調整してください。

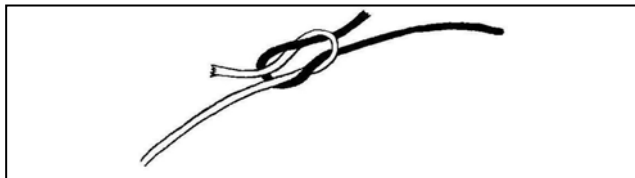
4. トワインの取付け

◆トワインボックスにセット

トワインをトワインボックスにセットし、①～⑤の順に通してください。



①図のようにトワインを結びます。



②ガイドに通します。

③ブレーキ金具に通します。

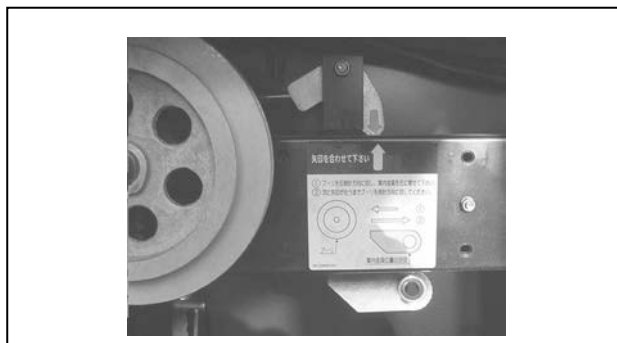
④段付きプーリに1回巻付けます。

⑤繰出しローラに通します。

ローラの間から約20cmトワインが出るように入れてください。

◆トワインガイドの位置を確認する

トワインガイドが次図の位置にあることを必ず確認してください。



◆巻付けピッチを調整する

草の種類、長さに応じて調整してください。トワインを段付きプーリの大きい方に巻き付ければ狭く巻け、小さい方に巻き付ければ広く巻くことができます。

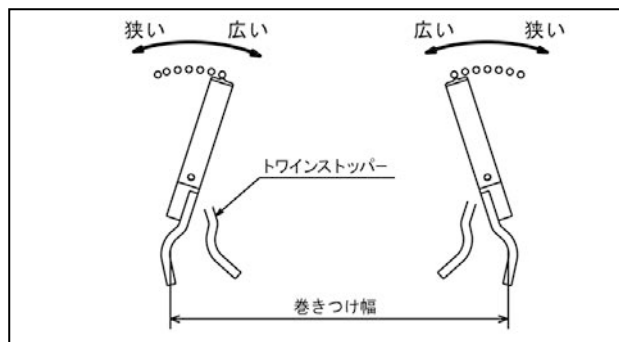
段付きプーリ径	大	小
巻付けピッチ	狭い	広い
成形する草の長さ	短い草	長い草
2巻で巻ける個数	約110個	約140個

注意

プーリには時計方向に1回だけ巻き付けてください。

◆巻き幅を調整する

トワイン装置の奥にあるトワインストッパーを希望する巻き幅に移動してください。



◆トワインのブレーキ調整

トワインの材質により、段付きプーリでトワインが滑るときは、ブレーキ金具のスプリングを締めてください。

運転に必要な装置の取扱い

5. ネット／トワインの選択

◆選択方法

ネットまたはトワインの希望する方を繰出しローラに通してください。

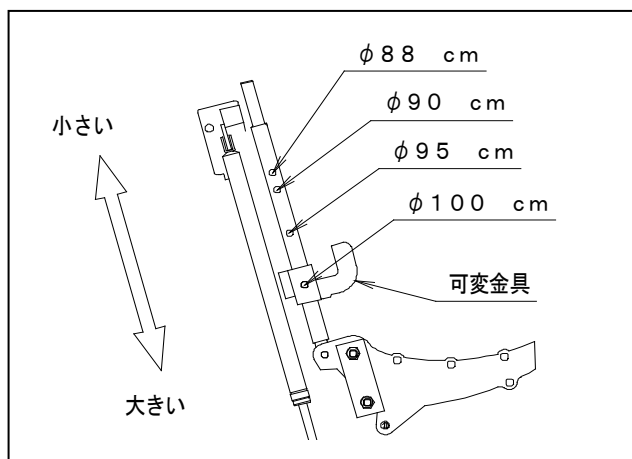
6. ベール直径の設定

◆設定方法

可変金具を左右とも希望する同じ直径の位置に固定してください。

ベール直径は草の水分や梱包密度などで変化することがあります。

また、後作業(ラップマシンやローダの能力など)を考慮して決定してください。



注意

可変金具が左右異なる位置になっていると機械を破損させる原因となります。作業前に必ず確認してください。

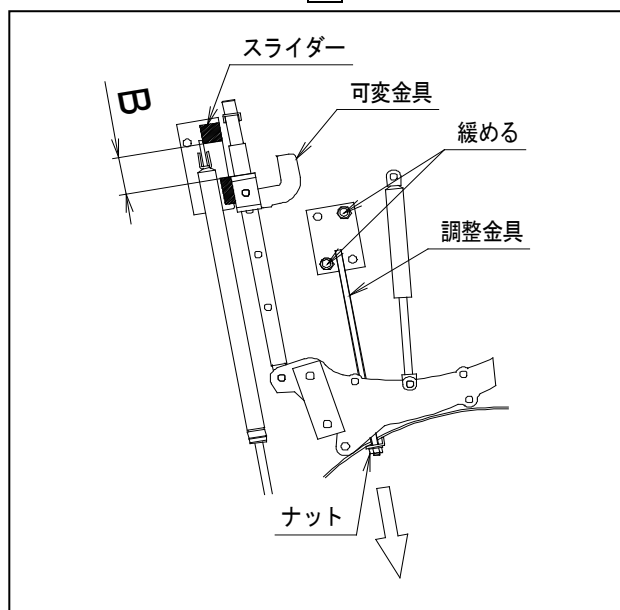
◆隙間調整

可変金具を一番上に固定した状態でスライダーとの隙間[B]は左右とも60mmでなければなりません。

タイトチェーンが伸びてくると、ベール直径が変化します。このため、定期的に張り調整を行う必要があります。

新車時は初期伸びが発生しますので、最初の200ベールで張り調整を行ってください。

調整金具のボルトを緩めてナットを締めると[B]が小さくなります。



注意

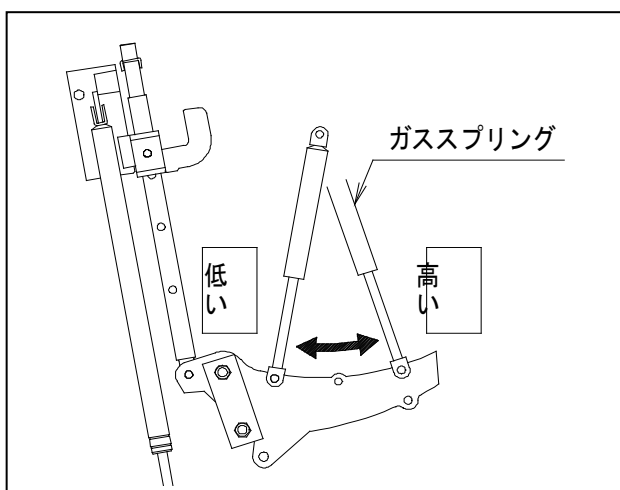
[B]寸法が小さすぎても大きすぎても機械を破損させる原因となりますので、作業前に必ず確認してください。

使用状況の経過にともないタイトチェーンの伸びを調整金具で張り切れなくなった時の対応については、販売店へご連絡ください。

7. 梱包圧の設定

◆設定方法

ガスプリングを左右とも希望する同じ位置に固定してください。



運転に必要な装置の取扱い

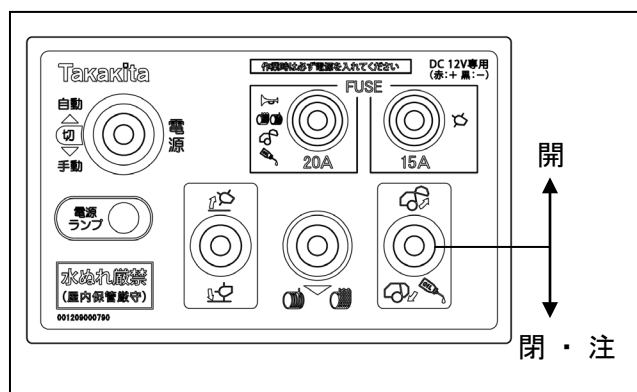
注意

梱包圧が左右異なる位置になっていると、機械を破損させる原因となりますので、作業前に必ず確認してください。

8. 自動注油装置の取扱い

◆チャンバー閉スイッチに連動

コントロールボックスの「閉」スイッチが押されている間、電動ポンプが作動してタイトチェンに注油されます。



◆作業中はオイル残量に注意

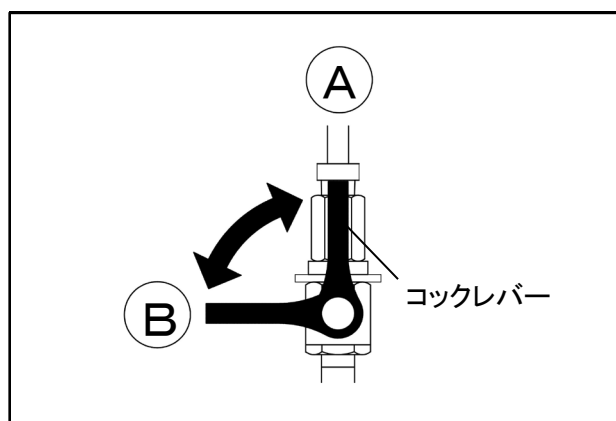
注油タンク内のオイル残量には特に注意して、少なくなれば補給してください。

注意

注油タンクのオイル不足により注油されない状態で作業すると、機械の寿命を著しく低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

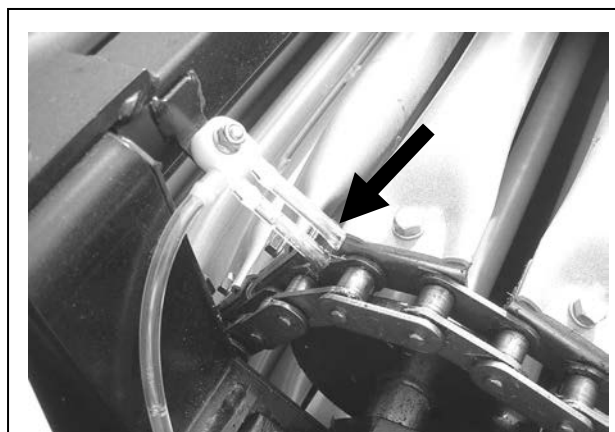
◆電動ポンプのエア抜きを行う

- ①タンクにオイルが入っていることを確認してください。
- ②コックレバーをA方向にしてください。
- ③赤のホースをタンクより抜き、電動ポンプのコネクタを「エアヌキ」と書かれたコネクタに付け替え、オイルが出たら「チュウユ」と書かれたコネクタに戻してください。
- ④オイルが出ていることが確認できたら、ホースを元に戻し、コックレバーをB方向にしてください。



◆定期的にノズルを清掃してください

注油ノズルには草やワラが付着しやすく、そのまま使用すると、チェンへ注油されていないことがありますので、定期的にノズル先端部に付着した草やワラを清掃してください。



警告

点検・清掃は必ずエンジンを停止してから行ってください。

これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

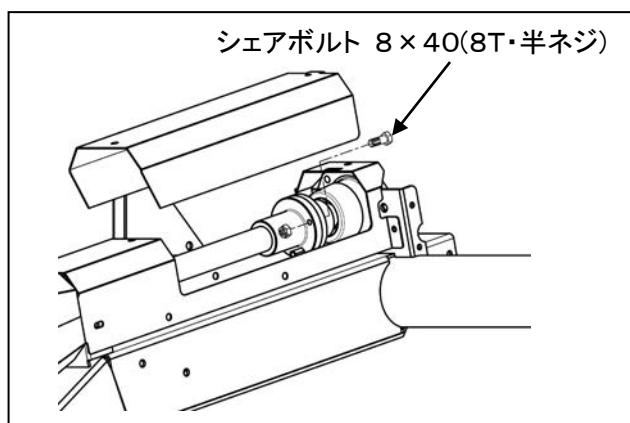
運転に必要な装置の取扱い

9. 安全装置の取扱い

◆メインシェアボルト

前部中央ミッション前方のカバー内にあります。切断した場合は、必ずエンジンを停止し、付属の逆転ハンドルで穴を合わせてボルトを入れます。

使用するボルトはM8×40(8T、半ネジ) 1本です。それ以外のボルトを使用すると、故障の原因になりますので絶対に使用しないでください。



◆シェアボルトがよく切断する場合

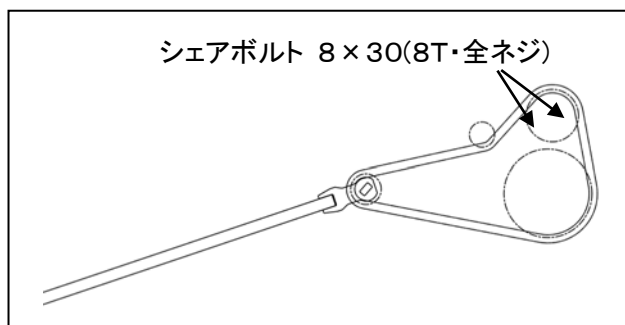
ウインドローが大きい場合は、作業速度を遅くしてください。

圧力ゲージが上がり始めたら走行速度を遅くしてください。

◆ロールベアラ部のシェアボルト

左側面カバー内にあります。切損した場合、必ずトラクタのエンジンを停止し、付属の逆転ハンドルで穴を合わせてボルトを入れます。

使用するボルトは、M8×30(8T、全ネジ) 2本のみです。それ以外のボルトを使用すると故障の原因となりますので絶対にやめてください。



警告

シェアボルト交換後は逆転ハンドルを必ず外してください。

これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

◆シェアボルトがよく切損する場合

梱包圧を小さくしてください。

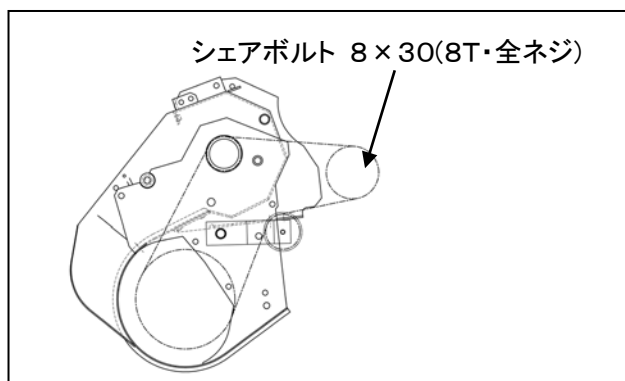
(33ページ参照)

◆ピックアップ部のシェアボルト

ピックアップ左のカバー内にあります。

切損した場合は、必ずエンジンを停止しピックアップ部の草を取り除き、タイヤを手で回して穴を合わせます。

使用するボルトはM8×30(8T、全ネジ)のみです。それ以外のボルトを使用すると故障の原因になりますので絶対にやめてください。



◆シェアボルトがよく切損する場合

作業速度を遅くしてください。

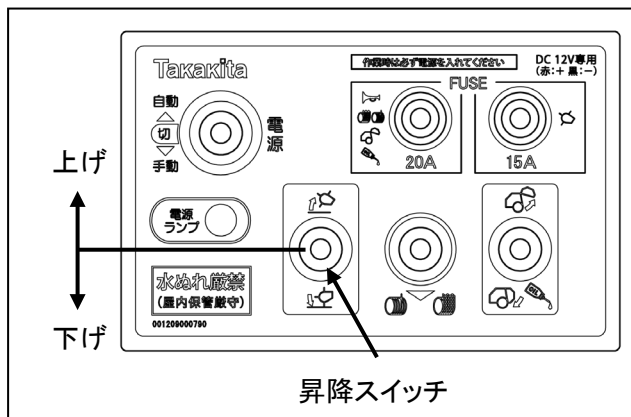
凸凹の多いほ場では、ローリンクを上げてタイヤが地面と接触しないようにしてください。

運転に必要な装置の取扱い

10. ピックアップ装置の取扱い

◆電動昇降装置を装備しています。

ピックアップから「カチッ」という音が聞こえるまでコントロールボックスのスイッチを操作し続けてください。



注意

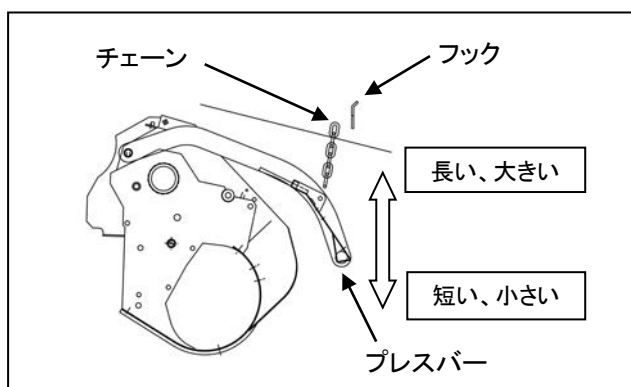
移動時は必ず最上げ状態にしてください。

これを怠ると機械を破損させる原因になります。

◆プレスバーの使い方

チェーンをフックから外して高さを調整します。

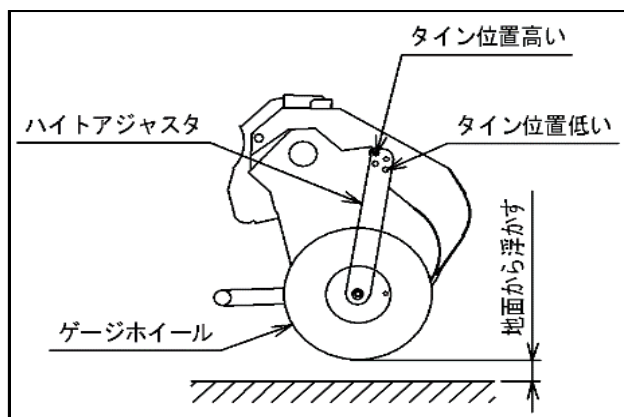
ウインドローの大小、草の長短で位置を決めてください。



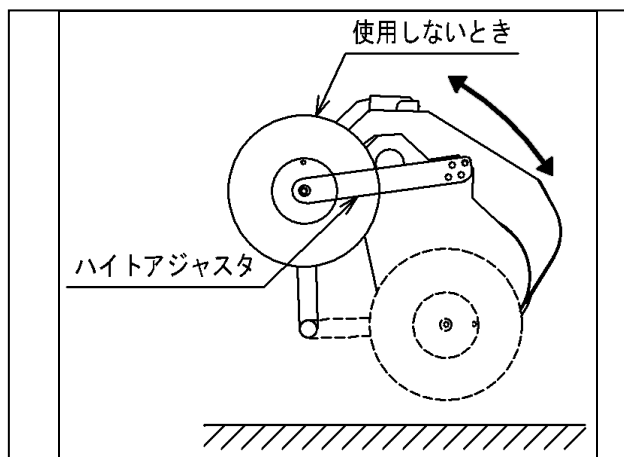
◆ゲージホイールの使い方

ハイトアジャスタを左右両方、希望する同じ高さに固定してください。

ゲージホイールは地面から少し浮かせた状態で使用してください。



ゲージホイールを使用しない時は、次図のようにハイトアジャスタを組み替えてください。



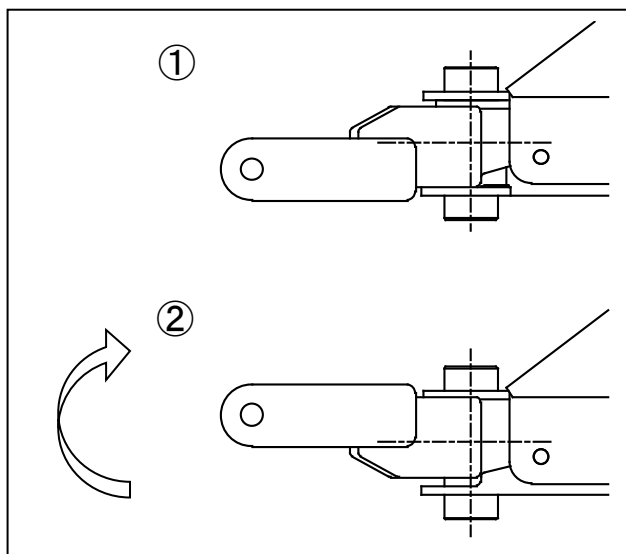
注意

ゲージホイールで草を踏むと、カッティングドラムやピックアップで詰まりやすくなります。

運転に必要な装置の取扱い

1 1. Vヒッチの取扱い

通常、Vヒッチは次図①のようにして使用します。

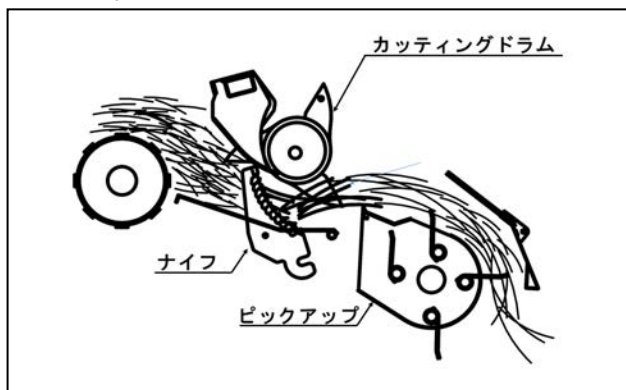


但し、ウインドローが大きく、ロワーリンクが作物に引っ掛けてしまっていて下げられない場合は、Vヒッチを上下逆にすることで(上図②)ピックを約3cm下げられます。

1 2. 切断装置の取扱い (VCタイプのみ)

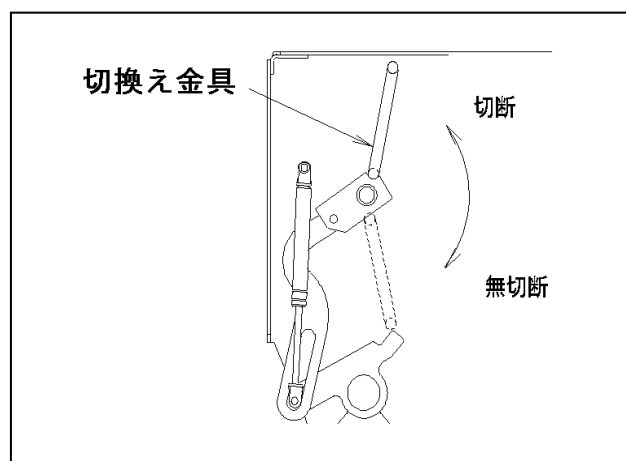
◆切断装置について

次図のように草はピックアップより拾い上げられた後、カッティングドラムとナイフの間で切断(理論切断長90mm)されると同時に成形室に送られバールが形成されます。



◆切断／無切断の切換え

本機右下に切換え金具があり、レバーの上下でナイフの出し入れができます。

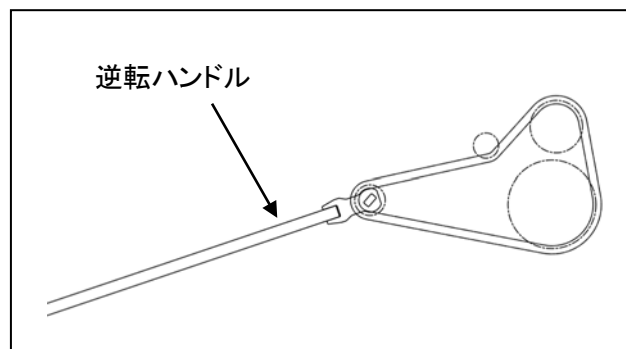


◆詰まったときは

無切断にしてトラクタのエンジン回転を落としゆっくりとPTOをつないでください。

復帰しないときは、逆転ハンドルを矢印の方向に回して、カッティングドラムを少し逆転し、詰まっている草を取り除いてください。

使い終わった逆転ハンドルは必ず外してください。



⚠ 警告

逆転ハンドルは必ず外してください。
これを怠ると傷害発生のおそれがあります。

注意

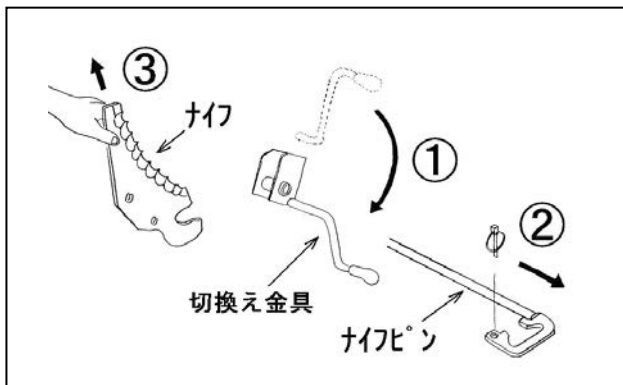
グランドPTOまたは逆転PTOによる逆転は、機材を破損させますので絶対に使用しないでください。

運転に必要な装置の取扱い

◆ナイフの交換

チャンバーを開け、ロック金具をセットします。エンジンは必ず停止してください。

- ①切換え金具を無切断にしてください。
- ②ナイフピンを抜いてください
- ③ナイフを抜いてください。



! 注意

ナイフの取り扱いには十分注意してください。

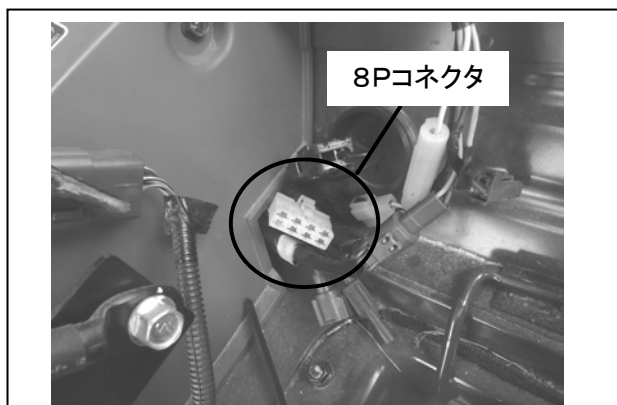
これを怠ると傷害事故につながるおそれがあります。

! 警告

コードに傷がつくと正常な点灯が行われず、思わぬ事故をおこすおそれがあります。

13. テールランプの確認

ハーネスの8Pコネクタをトラクタの灯火装置用コネクタに接続し、ランプが正常に点灯することを確認してください。



注意

コネクタの形状が異なる場合は、付属の簡易変換ハーネスを使用してください。

作業方法

1. 作業前に

◆注油のチェック

注油タンクのオイル残量をチェックし、「注油」スイッチを操作して装置に問題がないかを確認してください。

◆繰出しのチェック

コントロールボックスの電源を入れ、「繰出し」スイッチを入れてください。

「ピー」という音が約4秒鳴ることを確認してください。

◆ベールカウンタのリセット

ベールカウンタをリセットしてください。

◆ベール直径の設定

左右とも希望する直径に設定してください。

◆ベール密度の設定

左右とも希望する密度に設定してください。

◆ピックアップ高さの設定

タイヤが地面に接触しないように、ローリンクでピックアップ高さを決めてください。

ゲージホイールを使用する場合は固定位置を決めてください。

◆プレスバー高さの設定

草の種類とウインドローの大きさにあったプレスバーの位置に固定してください。

◆チャンバーを開閉

電装と油圧の確認をするため、PTOを回転させてチャンバーを開閉します。

2. PTOの回転速度

PTOをつなぐ時は、必ずエンジン回転を低速にしてください。高速回転で接続すると機械の寿命を著しく縮めます。

この機械で作業するときの回転速度は500～540min⁻¹(rpm)です。

これ以外の回転速度での作業は、故障の原因となりますので、行わないでください。

3. 拾い上げ方法

◆ウインドローを作ってください

拾い上げ梱包には、必ずウインドローを作ってください。

注意

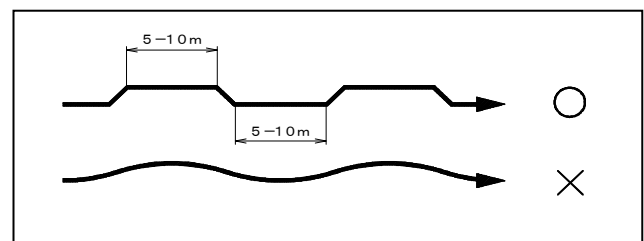
ウインドローが大きすぎると、詰まりの原因となり能率的な梱包作業ができません。

◆梱包作業

能率よく形のよいベールを作るためには、草がベールの幅いっぱいに入るように走行しなければなりません。

ウインドローの幅が狭い場合は、次図の上のように走行して、左右交互にピックアップで拾うようにしてください。

下のように蛇行運転すると形のよいベールになりません。



作業方法

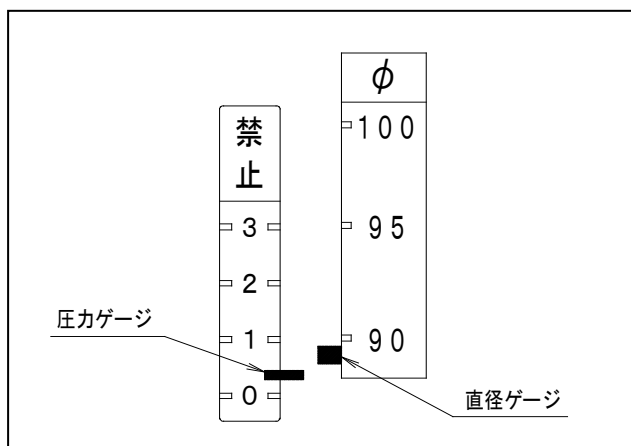
◆ゲージ確認

2種類のゲージを装備しています。

①直径ゲージのマーカで設定した直径になるまで動きます。

②圧力ゲージの針が動き始めます。

ゲージ針が動き始めたら、走行速度を落としてください。



4. 作業速度について

適正速度は4km/h～7km/hです。

切断する場合は、これより速度を落としてください。

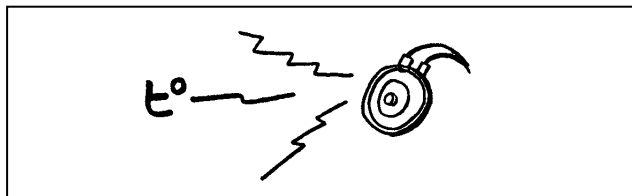
5. コーナーでの走り方

コーナーではウインドローが大きくなりやすいので、作業速度を落としてください。

6. ブザーが鳴ります

ボールの圧力が設定圧になるとブザーが鳴り、約2秒後にネットまたはトワインが自動的に繰り出されます。

繰り出しが始まるまでピックアップし、ゆっくり走行停止してください。



◆チャンバーを開けてボール放出

結束中はコントロールボックスから断続音が鳴ります。音が止まったら結束完了です。

チャンバー開閉スイッチを操作してボールを放出してください。

! 注意

後方に人や動物がいないことを確認してください。

また、傾斜地では放出した梱包ボールが転動しないよう、平坦な場所に放出してください。

◆放出を確認してチャンバーを閉じる

チャンバーから放出したことを確認してから、チャンバーを閉じてください。閉じた後はチャンバーロックを確実にするため、チャンバーが閉じた後、もう一度開閉スイッチを手前に操作してから、再び作業をスタートしてください。

7. 傾斜地での作業

◆必ず直角走行・急ハンドル禁止

等高線に対して直角方向に走行し、旋回は速度を落として、急旋回しないでください。

! 警告

等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。始業点検は、始業時に欠かさず行ってください。

警告

- 取り外したカバー類は必ず取り付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときはPTOを切り、エンジンを停止し、回転が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	チェック
1	コントロールボックス電源	電源ランプ点灯確認	
2	ネットブレーキドラム	錆チェック	
3	ネット／トワイン繰出しローラ	泥、汚れチェック	
4	繰出しベルトテンショナー	動作チェック	
5	トワイン案内金具	マーク位置確認	
6	タイトチェン	伸びチェック	
7	可変径部	左右の設定確認	
8	圧縮リンク	左右の設定確認	
9	自動注油タンク	オイル補充、ノズル掃除	
10	予備シェアボルト	不足の時は補充	
11	クローラ	張り調整	
12	切断ナイフ (VCタイプのみ)	切れ味チェック	
13	その他各部注油・グリス	各部への給油参照	
14	テールランプ	点灯確認	

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

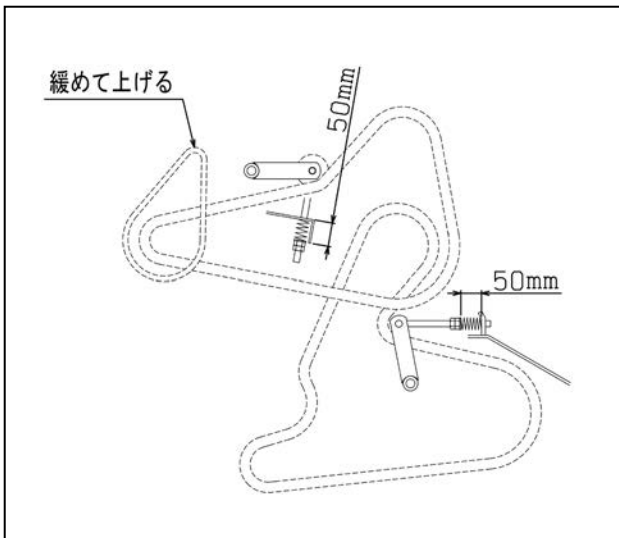
1. チェンの張り調整

◆タイトチェーン部

「運転に必要な装置の取扱い」のすき間調整(33ページ)に沿って張り調整を行ってください。

◆駆動チェーン部

左側面カバー内に駆動チェーンがあります。次図の要領で張り調整を行ってください。



注意

チェーンは特に初期伸びをします。
初回の使用から1時間経過後に張り調整を行ってください。

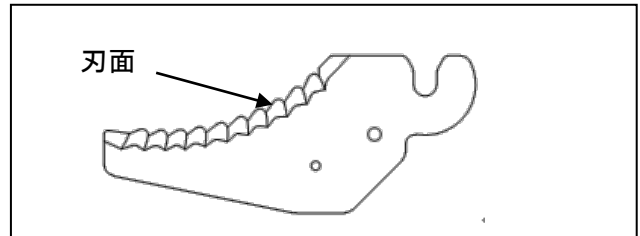
警告

- ①チェーンの張り調整や各部を調整するときは、トラクタのPTOを切り、エンジンを停止し、回転部が止まってから行ってください。
- ②各チェーン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には十分に注油してください。
また、部品が摩耗したまま使い続けると、摩擦による加熱の原因となり、場合によっては火災となります。

2. 切断ナイフの手入れ (VCタイプのみ)

◆定期的に研磨する

ナイフは研磨しないと切れ味が悪くなり、必要な馬力が増える原因にもなります。
毎作業前に刃面を研磨してください。



注意

ナイフの取り扱いには十分注意してください。

これを怠ると傷害事故につながるおそれがあります。

注意

一気に研磨すると焼なましされてナイフの減りが早くなります。
少し研磨して冷やす、を繰り返してください。

3. クローラ部の点検

◆定期的に点検を

ゴムクローラが緩んだまま走行すると、内周面のゴムが早期に摩耗し、クローラの寿命が短くなるおそれがあります。
また、走行中にクローラが外れるおそれがありますので、定期的に点検を行ってください。

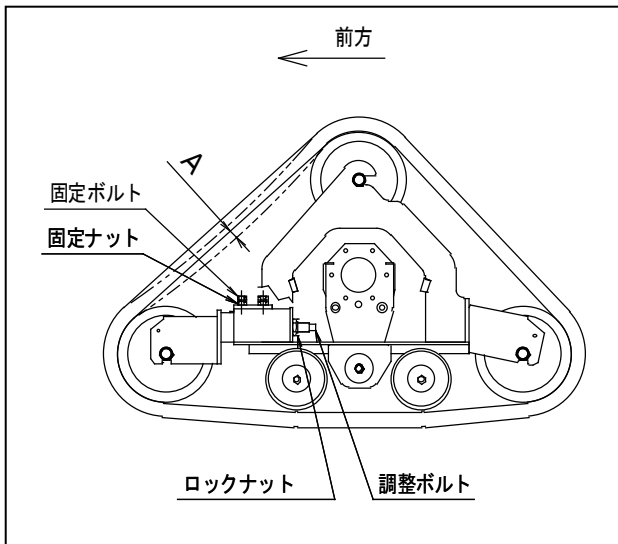
◆注意点

ゴムクローラの張り調整は、ベアラを前進で停止させ、調整ボルトで行ってください。調整後は、確実にロックナットで固定してください。

簡単な手入れと処置

◆調整方法

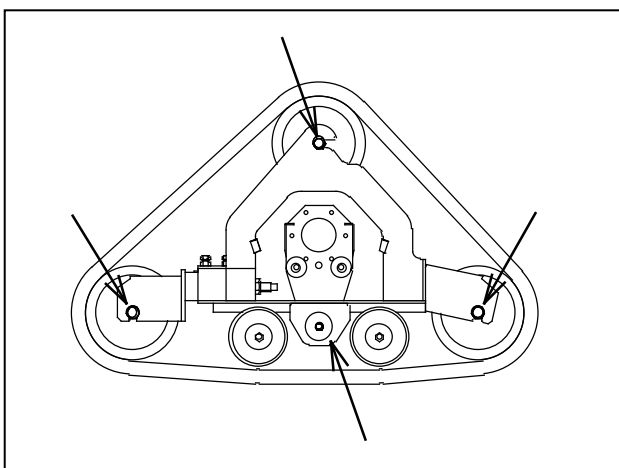
- ①固定ナットおよび固定ボルトを緩めてください。
- ②ロックナットを緩めてください。
- ③クローラの前方斜面中央部を20～25kgで押した時、A部のたわみが10～15mmになるように、調整ボルトを回転させてください。



- ④ロックナットを締めてください。
- ⑤固定ボルトおよび固定ナットを締めてください。

◆グリスアップ

50時間使用毎に次図の4ヶ所にグリスアップを実施してください。



⚠ 警告

クローラに関係する作業を行う場合は、安全な場所に本機を降ろし、必ず歯止めをしてから行ってください。

4. スイッチの調整

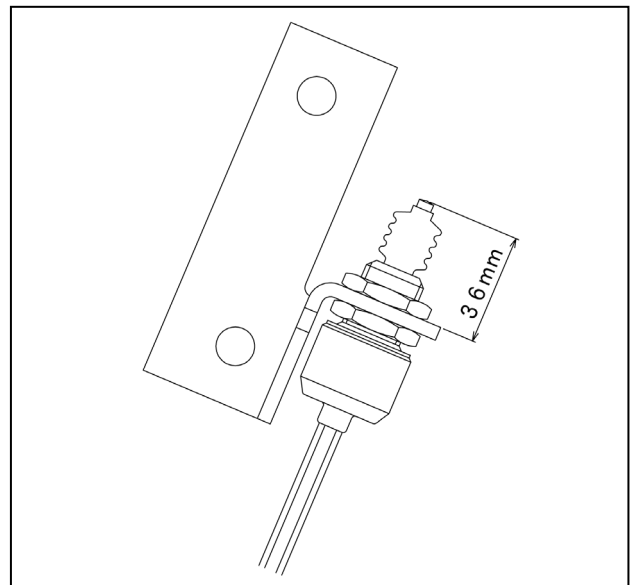
⚠ 警告

トラクタのエンジンをかけたまま調整しますと重大な事故が起こる可能性がありますので、必ずPTOを止め、エンジンを停止した状態で行ってください。

※各スイッチの位置は22ページを参照してください。

◆満了感知スイッチ

満了感知スイッチの先端からベースまでの距離を36mmに調節してください。

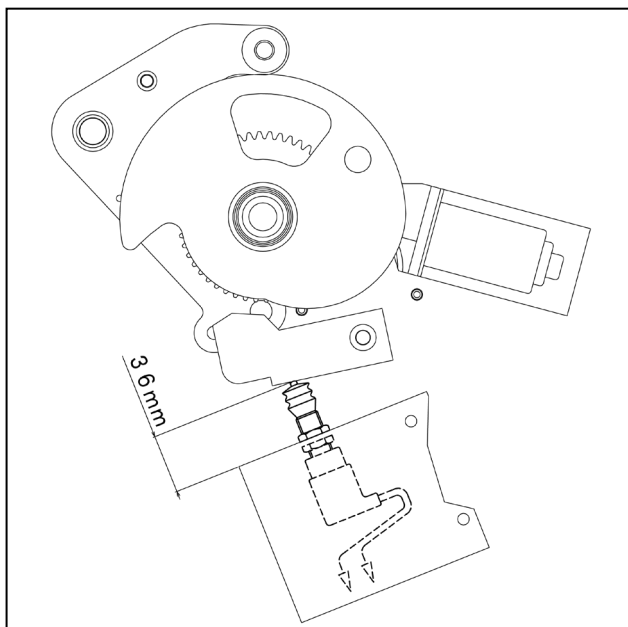


簡単な手入れと処置

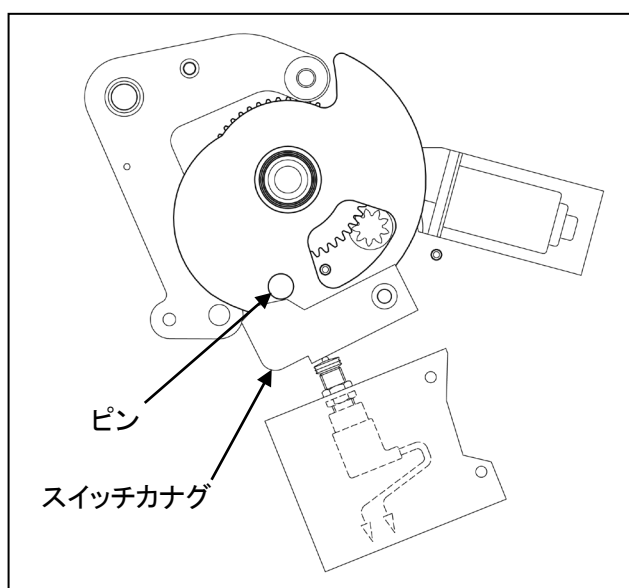
◆カムスイッチ

- ①コントロールボックスの電源を入れ、繰出しスイッチを押し、カムが次図のような位置になったときに電源を切ってください。

その後、カムスイッチの先端からベースまでの距離を36mmに調節してください。

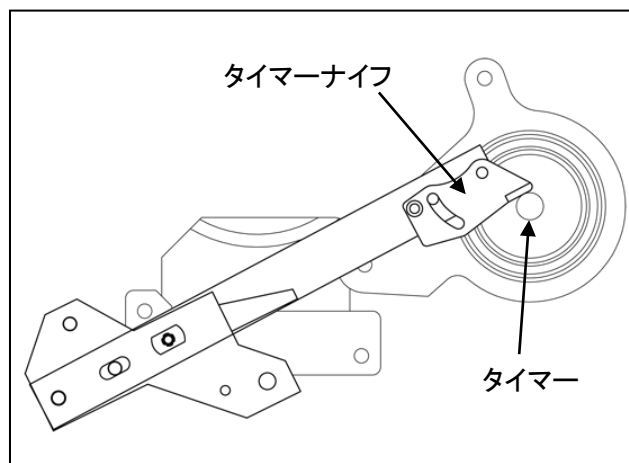


- ②コントロールボックスの電源を入れ、カムを一回転させてください。その際に、カムのピンがスイッチカナグに接触して次図のような位置になるようにカムスイッチを再調節してください。

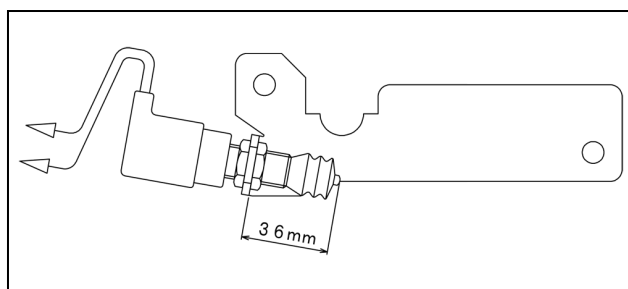


◆ナイフスイッチ

- ①タイマーナイフを上げてタイマーの上に乗せてください。



- ②ナイフスイッチの先端からベースまでの距離を36mmに調節してください。



- ③コントロールボックスの電源を入れ、繰出しスイッチを押してください。ブザーの断続音が鳴り、ナイフを降ろしたときにブザー音が止まるかを確認してください。

⚠ 注意

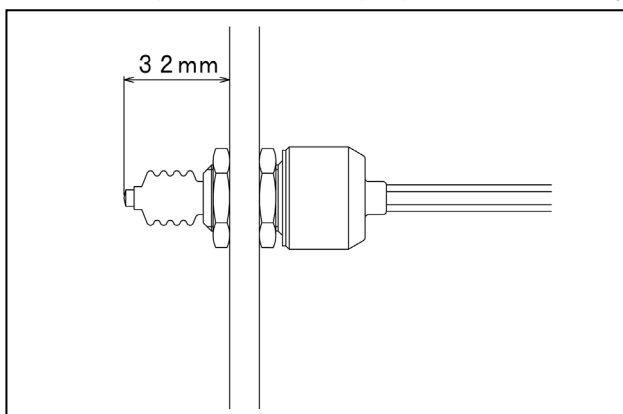
タイマーからタイマーナイフを下げたときに指を挟まないように注意してください。

簡単な手入れと処置

◆チャンバー閉スイッチ

①コントロールボックスの電源を入れ、PTOを回転させてください。その後、チャンバー閉スイッチを押しチャンバーを開いて、シリンダストッパで固定してください。固定し終わったらPTOを止め、エンジンを停止し、コントロールボックスの電源を切ってください。

②チャンバー閉スイッチの先端からベースまでの距離を32mmに調節してください。



③シリンダストッパを外し、PTOを回転させてください。その後、チャンバー閉スイッチを押してチャンバーを閉じてください。

⚠ 危険

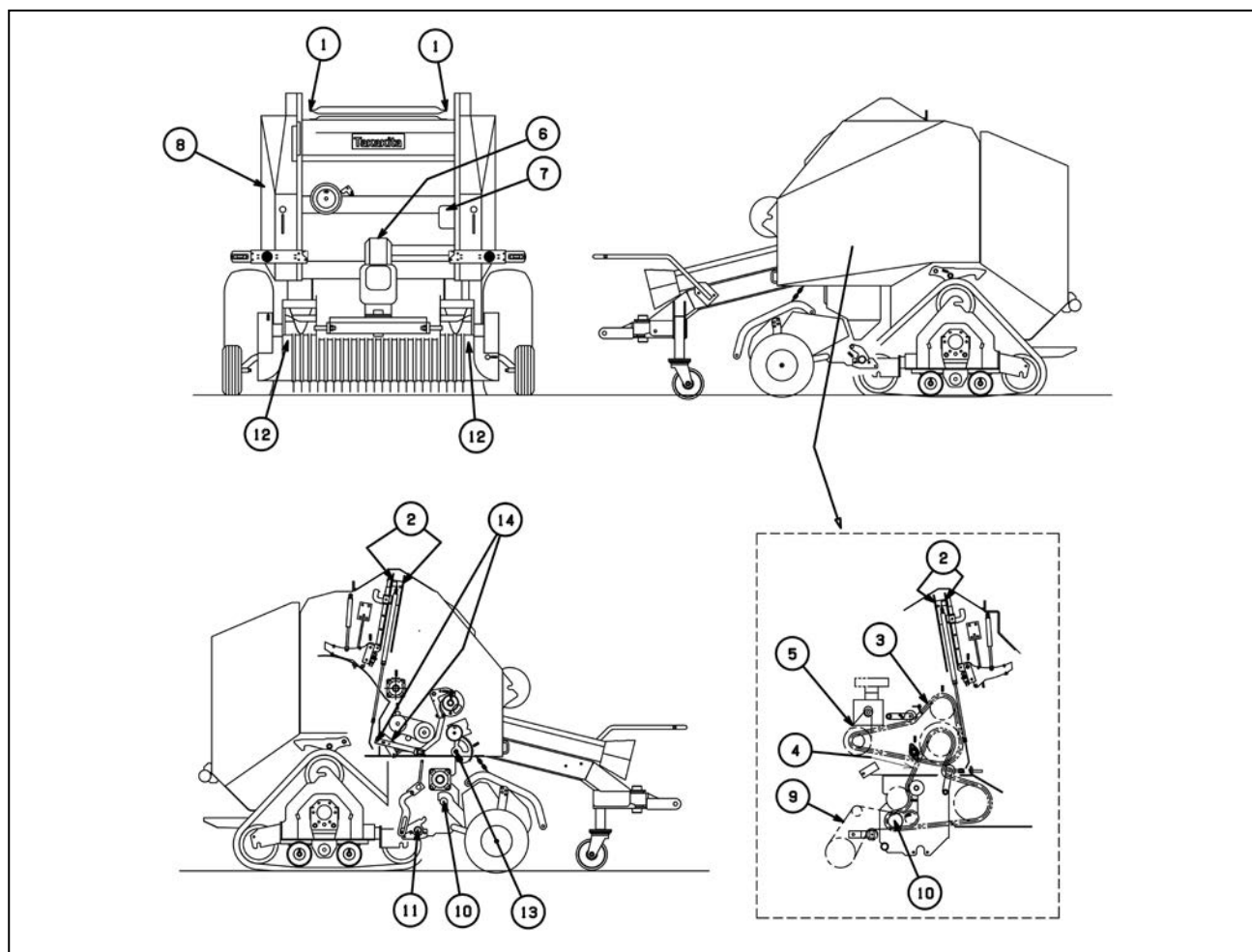
必ずシリンダストッパをセットしてください。ストッパをセットしないでチャンバーを開けた状態でのスイッチの調節は絶対に行わないでください。

これを怠ると重大な傷害事故につながるおそれがあります。

簡単な手入れと処置

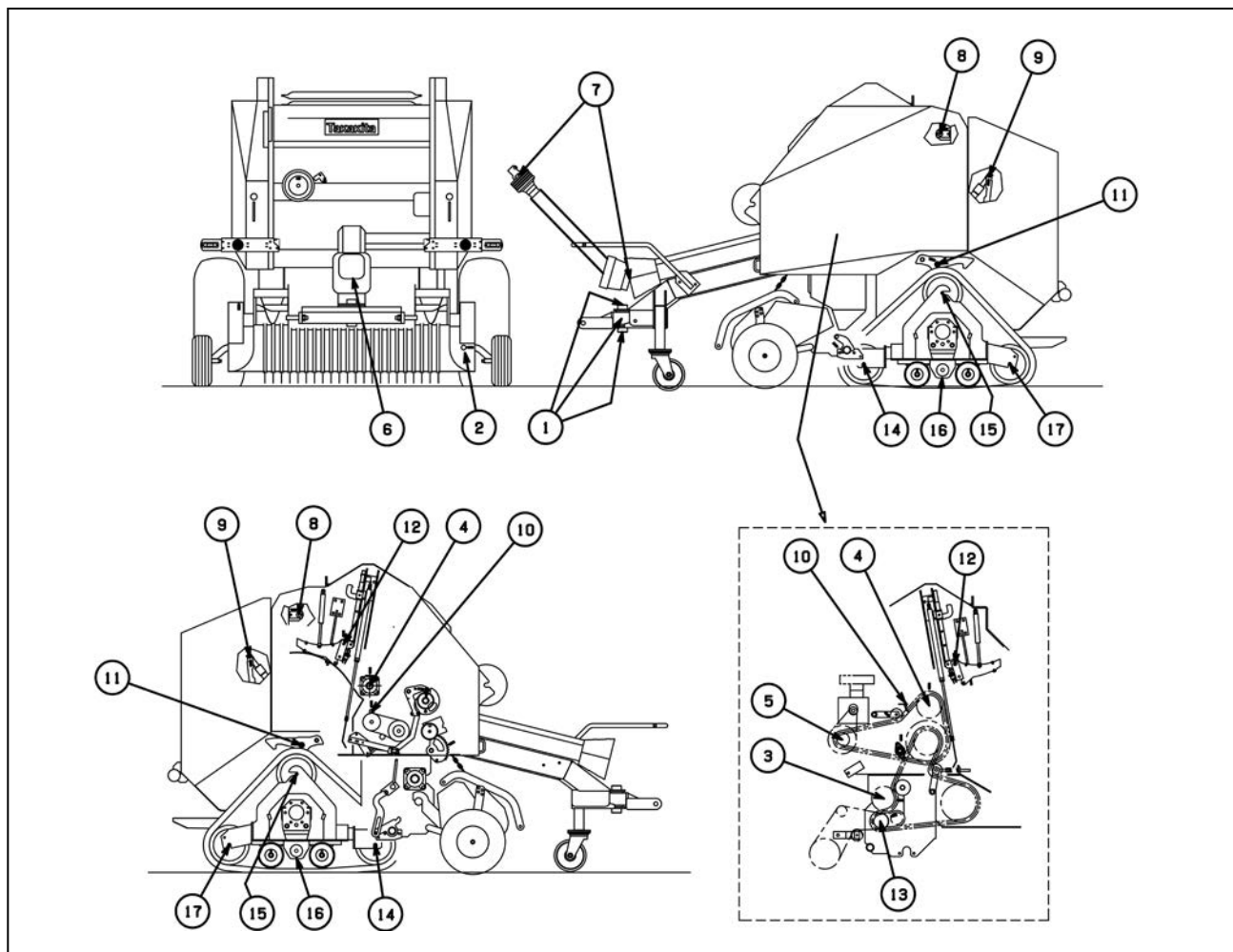
5. 各部の注油・グリスアップ

図表に従って各部に注油・グリスアップを行ってください。



番号	場 所	注油時期	番号	場 所	注油時期
1	タイトチェン	作業前	11	ナイフ切断支点(左右)	20時間毎
2	スライドレール(左右)	作業前	12	ピックタイムバー(左右)	20時間毎
3	# 80チェン(主駆動)	作業前	13	ピック昇降軸支点(左右)	20時間毎
4	# 80チェン	作業前	14	タイマーアーム	作業前
5	油圧パッケージチェン	20時間毎			
6	ミッションケース ギヤオイル # 90 0.8L	100時間毎に 入れ替え			
7	油圧パッケージ VG32 1.6L	作業前に確認			
8	注油タンク (右カバー内側) VG32 5L	作業前に確認			
9	# 50ピックチェン(左右)	20時間毎			
10	ピック支点(左右)	20時間毎			

簡単な手入れと処置



番号	場 所	グリスアップ時期	番号	場 所	グリスアップ時期
1	ヒッチ支点 (3ヶ所)	20時間毎	10	フロントローラ軸 ベアリング (左右)	20時間毎
2	ピックアップカム部	作業前	11	チャンバーロック支点 (左右)	作業前
3	カッティングドラム ベアリング (左右)	20時間毎	12	圧縮リンク支点 (左右)	20時間毎
4	タイトチェン ベアリング (左右)	20時間毎	13	ピック駆動ベアリング	20時間毎
5	主駆動軸ベアリング	20時間毎	14	テンション輪 (左右)	50時間毎
6	入力軸ベアリング	20時間毎	15	遥動支点 (左右)	50時間毎
7	ジョイント両端	20時間毎	16	アイドラー 上 (左右)	50時間毎
8	チャンバー開閉支点 (左右)	20時間毎	17	アイドラー 後 (左右)	50時間毎
9	シリンダ 上 (左右)	20時間毎			

簡単な手入れと処置

6. 長期格納時の手入れ

- 付着した泥やほこり等を落とし、巻き付いた草等を取り除いてください。
- 各回転・摺動部やチェーン類には十分注油し、錆ないようにしてください。
- 塗装の剥がれた部分には、補修塗料を塗って、錆が出ないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットが緩んでいないかを確認し、緩んでいるときは締めてください。
格納する場所は、雨やほこりのかからない屋内に保管してください。
- 格納は平坦な所で保管してください。

不 調 診 断

	不調内容	診断	処置	参照 ページ
ベール	ベール径が 大きくなる	タイトチェンが伸びている	張り調整を行う	33
		張り調整の誤り	調整方法を確認する	33
	左右の径が違う	片側にしか草が入っていない	左右均等に入るように走る	39
		ベール径の設定が左右異なる	左右とも同じベール径に設定する	33
	固くならない	梱包密度が低い	密度を一段上げて作業する	33
		密度の設定が左右異なる	左右とも同じ密度に設定する	33
		走行速度が速い	圧力ゲージが上がり始めたら速度を1段遅くする	40
	トラクタへの負荷 が大きい	草の水分量が高い	密度を一段下げて作業する	33
		草が詰まっている	チャンバーを開けて草を取り除く	—
		注油不足	注油タンク、配管に空気が入っていないか確認する	34
	草が入り口で 詰まる	作業速度が速い	速度を1段遅くする	40
		プレスバーの位置が低い	プレスバーを上げる	36
		ナイフが切れない	ナイフを研磨する	42
		ゲージホイールで草を踏んでいる	ゲージホイールを地面から浮かすまたは効かなくする	36
放出	フロントケース から出てこない	梱包密度が高すぎる	密度を一段下げて作業する	33
		前傾姿勢で作業している	作業機が水平になるようにロワーリンクを調整する	37
ピック	ピックアップ が昇降しない	ピックアップモータギヤ部に ほこりが噛んでいる	ほこりを掃除する	22
		ヒューズが切れている	ピックアップモータギヤ部のほこりを掃除して ヒューズを交換する	22 25
		支点部の回転が固くなっている	ピック昇降軸支点部に注油する	46
	昇降速度が 遅い	支点部の回転が固くなっている	ピック昇降軸支点部に注油する	46
	短い草を 拾わない	タインで前に吐き出している	プレスバーを下げる	36
	シェアボルト がよく切れる	タインで地面を搔いている	ロワーリンクを上げる	37

不 調 診 断

	不調内容	診断	処置	参照 ページ
ネット	ネット巻きが スタートしない	コントロールボックスの 電源が入っていない	電源を確認する	28
		ヒューズが切れている	繰出しモータギヤ部のほこりを掃除して ヒューズを交換する	22 25
		回路がリセットされていない	電源を入れなおす	28
		ベルトテンションが動作して いない	テンション金具が軽く動くかを確認する	—
	繰出しローラに 巻き付く	ゴムローラが濡れている	水分をふきとる	—
		土や泥が付着している	土や泥を取る	—
	巻き始めに ネットが切れる	ブレーキが強すぎる	ブレーキバネを前側に掛けてブレーキを 弱くする	31
		PTO回転が速すぎる	540min ⁻¹ (rpm)以下にする	39
		ブザーが鳴ってすぐに停止 している	繰り出しが始まったらゆっくり停止する	40
		ブレーキドラムが錆びている	ブレーキドラムの錆を取る	31
		タイマーナイフがタイマー軸 に載っていない	タイマーナイフが軽く動くように掃除をする	31
	カッティング ドラムに巻き付く	ブザーが鳴ってすぐに停止 している	繰り出しが始まったらゆっくり停止する	40
	ネット巻きが 緩い	通し方が間違っている	通し方を確認する	30
		ブレーキが弱い	ブレーキバネを後ろ側に掛けて強くする	31
		ブレーキシューが減っている	ブレーキシューを交換する	31
	ネットが 広がらない	通し方が間違っている	通し方を確認する	30
		ブレーキが弱い	ブレーキバネを後ろ側に掛けて強くする	31
		ブレーキシューが減っている	ブレーキシューを交換する	31
	放出後に ネットが破れる	巻き数が少ない	巻き数を増やす	31
	切断しない	タイミングリンクが動作して いない	トワインガイドが所定の位置にあるかを確認 する	30
		タイマーナイフが減って いる	タイマーナイフを研磨または交換する	3 1

不 調 診 断

	不調内容	診断	処置	参照 ページ
トワイン	トワイン巻き がスタートしない	ヒューズが切れている	繰出しモータギヤ部のほこりを掃除して ヒューズを交換する	22 25
		繰り出し時にスリップしている	通し方を確認する	32
		繰り出し長さが短い	PTO回転を速くする	39
		トワインがもつれている	通し方を確認する	32
	巻きが緩い	ブレーキが弱い	ナットを締めてブレーキバネを強くする	32
		巻付けピッチが荒い	トワインを大プーリに巻きつける	32
	カッティング ドラムに巻き付く している	ブザーが鳴ってすぐに停止 している	繰り出しが始まったらゆっくり停止する	40
	巻きピッチが 一定でない	ベールがピア樽形状に なっている	均一なベールになるように走行する	39
		ブレーキが弱い	ナットを締めてブレーキバネを強くする	32
		横送り金具の動作が悪い	軽くスライドするように掃除する	—
	切断しない	タイミングリンクが動作して いない	横送りチェーンを張る	—
電装	ヒューズがよく 切れる	繰出しモータギヤ部に ほこりが噛んでいる	繰出しモータギヤ部のほこりを掃除する	22
		ピックアップモータギヤ部に ほこりが噛んでいる	ピックアップモータギヤ部のほこりを掃除する	22
	自動で 繰り出さない	回路がリセットされていない	電源を入れなおす	28
	作業中にピーピー 音が鳴る	草が詰まっている	チャンバーを開けて草を取り除く	—
注油	オイルが出ない	タンクとポンプの配管に 空気が入っている	エア抜きをする	34
		番手が大きい	番手を32番にする	—
	オイルが 出すぎる	番手が小さい	番手を32番にする	—

付 表

1. 主要諸元

型 式	VR-983WXC	VC-983WXC
名 称	クローラロールペーラ	クローラロールペーラ
装 着 方 法	2P Vヒッチけん引式(カテゴリ I・II)	
駆 動 方 法	PTO駆動(回転速度 500~540min ⁻¹ (rpm))	
適 応 ト ラ ク タ	24.3~58.8kw(33~80PS)	
機 体 寸 法	全 長	3,150mm
	全 幅	1,990mm
	全 高	1,940mm
質 量	1,595kg	1,620kg
作 業 幅	150cm	
クローラサイズ	幅280mm×P72×43リンク	
接 地 長 さ	825mm	
平 均 接 地 圧	23.7kPa(0.24kg/cm ²)	
ベール寸法	φ90~100cm×85cm	
切 断 寸 法	—	9cm・無切断
チャンバー開閉	内蔵油圧	
ピックアップ昇降	電動モータ	
結 束 装 置	ネットおよびトワイン	
作 業 速 度	4~7km/h	
作 業 能 率	6~9分/10a(ネット使用時) 9~13分/10a(トワイン使用時)	7~10分/10a(ネット使用時) 10~14分/10a(トワイン使用時)

※この主要諸元は、改良などにより、予告なく変更することがあります。

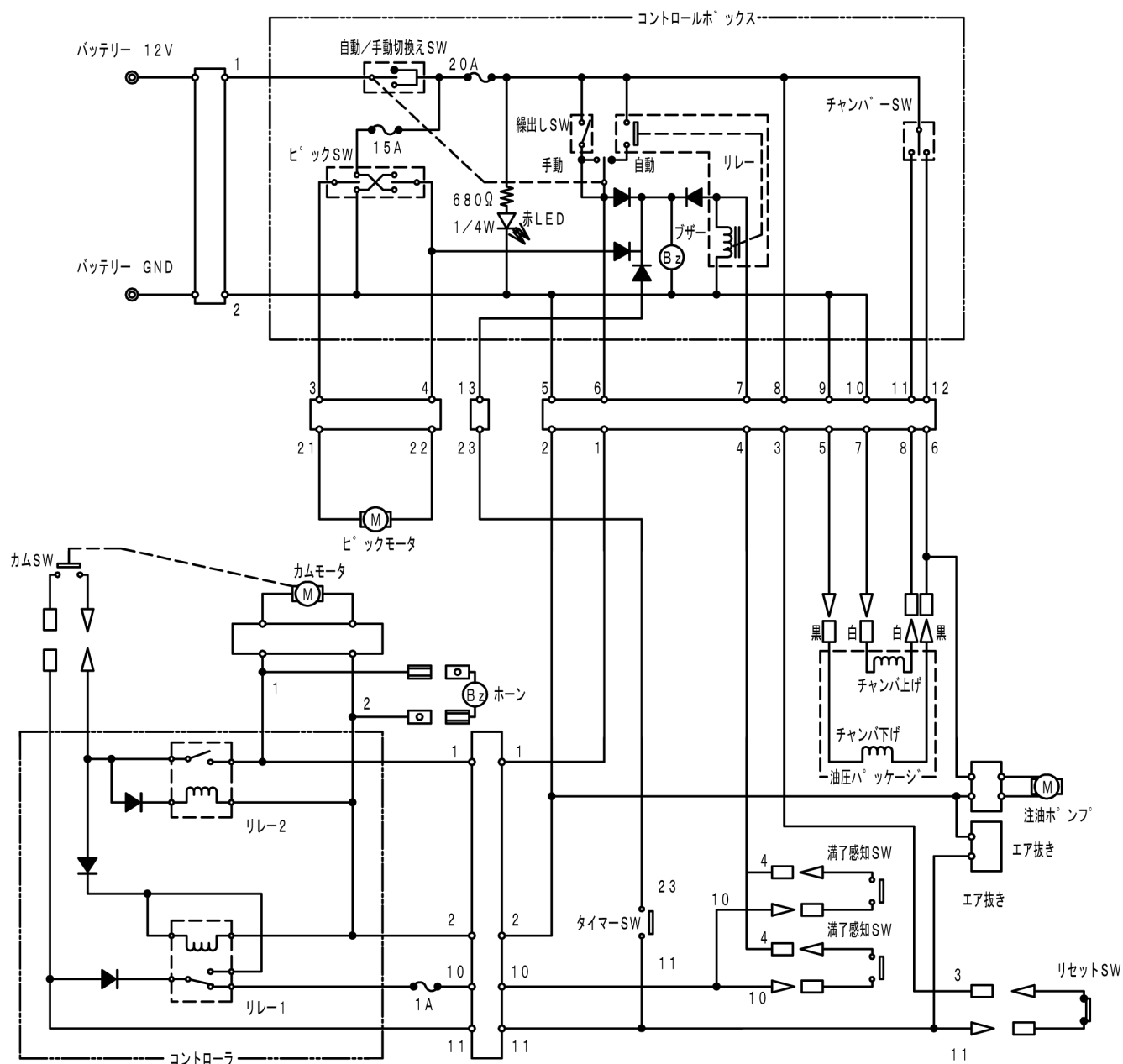
※上記の質量はユニバーサルジョイントを含んだ値になります。

2. 主な消耗品

部 品 名 称	部 品 コード	サ イ ズ	員 数
ピックタイン	25107 5171 001		28本/台
ピックサイドタイン	25107 5731 001		16本/台
カッティングナイフ	33107 4181 000		7枚/台
シェアボルトアッシ 入力軸部	01158 2080 40E	ボルト8×40(8Tキジ半ネジ)+ フニロンナット8 10本セット	1セット/台
シェアボルトアッシ ピック部、 タイトチェン部	01318 5080 300 02160 0081 700	ボルト8×30(8T全ネジ) タフロックナット8	各10個/台

付 表

3. 電装－1



コントロールボックス側

No.	色	AVS
1	赤	2.0
2	黒	2.0
3	赤／白	1.25
4	赤／黒	1.25
5	緑	1.25
6	赤	1.25
7	黒	0.5
8	白	0.5
9	灰	1.25
10	茶	1.25
11	黄	1.25
12	青	1.25
13	赤	1.25

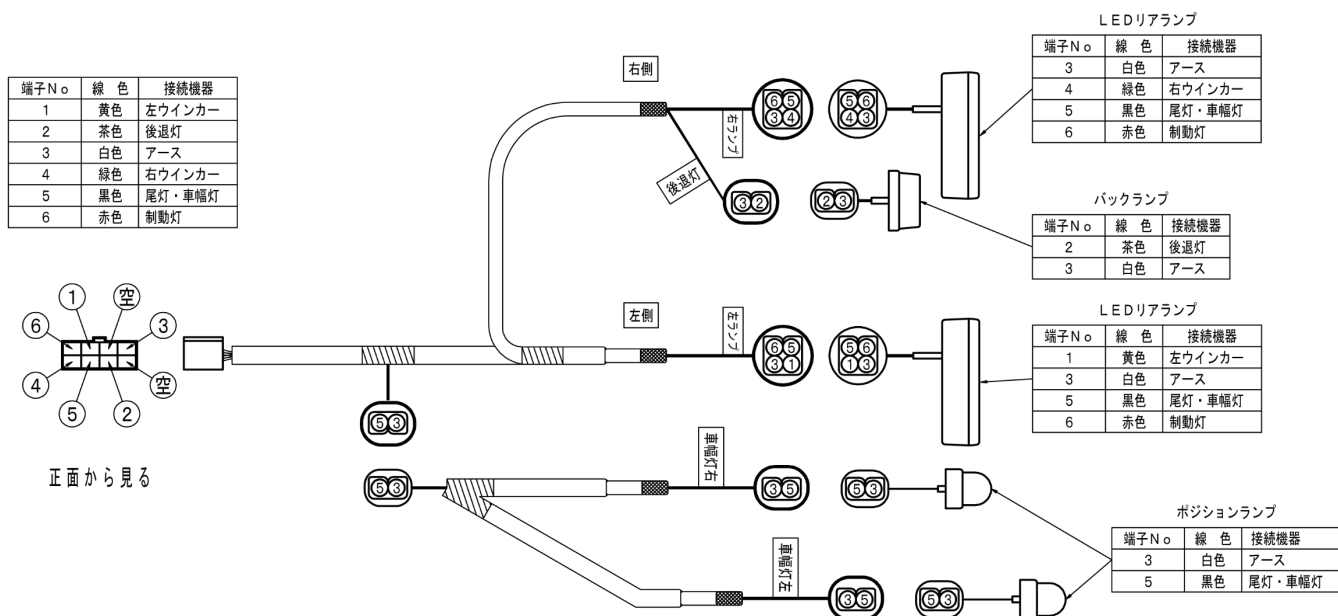
本体側

No.	色	AVS	機能
1	赤	1.25	自動／手動モータ駆動
2	緑	1.25	GND
3	白	1.25	感知電源
4	黒	1.25	リレー駆動
5	灰	1.25	GND
6	青	1.25	チャンバー閉
7	茶	1.25	GND
8	黄	1.25	チャンバー開
10	橙	1.25	感知信号
11	黄	1.25	コントローラ電源／タイマ
21	赤／白	1.25	ピック上
22	赤／黒	1.25	ピック下
23	若草	1.25	タイマ

付 表

4. 電装－2

◆テールランプ



◆変換ハーネス

トラクタ側の燈火装置用ソケットが日農工規格で定めるトレーラ用接続コネクタ(CN8極コネクタ)ではなく、DIN規格品(7PDINソケット)の場合変換ハーネスを取り付けてください。

以下の図のように変換ハーネスを取り付けてください。

ハーネスは必要に応じてリピータイで固定してください。

端子No.	線 色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

端子No.	線 色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2	茶色	後退灯
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯・車幅灯
6	赤色	制動灯

